

博士論文（要約）

歴史なき人びとの歴史実践  
ーホンジュラスの逃亡奴隷ガリフナ

金澤 直也

## 目次

図表目次.....	3
凡例 .....	5
問題の所在 .....	6
第1章 民族誌再読.....	25
1節 先行研究 .....	26
2節 史料調査の検討 .....	37
3節 フィールド調査の検討 .....	42
第2章 混血思想と黒人の排除.....	49
1節 さまざまな黒人の流入 .....	55
2節 黒人移民問題.....	58
3節 よそ者.....	63
第3章 民俗文化へ.....	69
1節 夜明けまえ.....	70
2節 国立民俗舞踊団代表クリサント・メレンデスのめざめ .....	73
3節 当事者の歴史と局外者の歴史.....	80
第4章 我われのルーツへ .....	92
1節 世界銀行の介入 .....	94
2節 観光開発と土地問題.....	97
3節 ネオリベラル多文化主義 .....	103
第5章 黒人から先住民、そして土着民へ .....	108
1節 先住民 <i>indígena</i> と土着民 <i>autóctono</i> のはざままで.....	112
2節 ILO 第 169 号条約の先住民族の定義.....	119
3節 黒い先住民.....	124
おわりに.....	131
情報提供者リスト.....	139
巻末資料 1900 年から 2014 年までの政治体制とおもな出来事.....	146
引用文献.....	149

## 図表目次

図 1-1 アフリカ系子孫と差別に関する各国の法律.....	11
図 1-2 調査地テグシガルパとラセイバ、テラの位置.....	13
図 1-3 調査地ラセイバの中心部.....	14
図 1-4 港町テラおよびガリフナ共同体サンファンとトルナベ.....	15
図 1-5 【写真】 ガリフナ共同体リオティント調査中の筆者（2010 年 6 月 2 日調査地の住民撮影） ....	19
図 1-6 【写真】 筆者が受講した国立民俗舞踊団のガリフナ講座（2006 年 8 月 2 日筆者撮影） .....	20
図 1-7 第 1 回アフリカ系子孫世界サミットのポスター.....	22
図 2-1 1797 年のガリフナのホンジュラス上陸ルート.....	26
図 2-2 中学校教科書のホンジュラス民族分布図.....	27
図 2-3 【写真】 コエリョの『トルヒージョの日々』より（1948 年） .....	36
図 3-1 中米の英語圏の歴史.....	54
図 3-2 【写真】 黒人へ、墓場への無料チケットさしあげます。必要な人は、だれでもいい からラテンアメリカ人に問い合わせてください。（1924 年） .....	58
図 3-3 【写真】 カリブ海沿岸のカラタスカ湖に住む先住民と黒人の混血女性（1939 年） ....	61
図 4-1 【写真】 国立民俗舞踊団代表クリサント・メレンデス .....	70
図 4-2 【写真】 ラセイバのガリフナ・フェスティバル.....	75
図 4-3 【写真】 ラセイバの聖イシドロ祭の夜.....	76
図 4-4 ダビッドソンが描いた 1797 年のガリフナ上陸ルート .....	82
図 4-5 スアソがゴンザレスの著作から引用したガリフナ上陸ルート .....	83
図 4-6 【写真】 OFRANEH 規約書（筆者所有） .....	84
図 5-1 【写真】 テラ湾観光開発プロジェクト記念碑（2010 年 4 月 5 日筆者撮影） .....	94
図 5-2 【写真】 トルナベ共同体の「我われのルーツ」プログラム告知板（2010 年 5 月 31 日筆者撮影） .....	105
図 6-1 【写真】 OFRANEH 創設者エラスモ・スニガ・サンブラ .....	112
図 6-2 【写真】 文化芸術スポーツ省大臣トゥリオ・マリアノ・ゴンサレス .....	114
図 6-3 【写真】 エドゥアルド・ビジャヌエバ.....	124
図 6-4 【写真】 ジョセフ・O・パラシオ.....	126
表 2-1 ホンジュラスのガリフナ人口.....	28
表 2-2 ホンジュラス、ベリーズ、グアテマラ、ニカラグアのガリフナ人口.....	29

表 2-3 ニューヨークのガリフナ人口 .....	29
表 2-4 エスニック集団の平均月収（ドル） .....	30
表 2-5 外国から毎月送られてくる金額（ドル） .....	30
表 2-6 2001-2002 年のガリフナと英語話者黒人の非識字率と貧困（％） .....	31
表 2-7 ガリフナ語の形成過程 .....	32
表 2-8 日常会話で使用される言語の割合（％） .....	33
表 3-1 人種・民族をめぐる自己認識と他者認識の関係（標本抽出約 50 人） .....	51
表 3-2 1823-1830 年の属領ホンジュラスの人口（中米のカリブ海沿岸） .....	57
表 3-3 1930 年と 1940 年の人種別人口統計 .....	59
表 3-4 1930 年と 1940 年の国籍別人口統計 .....	60
表 4-1 1797 年のガリフナのホンジュラス上陸をめぐる様々な史料 .....	81

## 凡例

・本文および注で文献に言及するときは、（ ）にいれ、著者姓、発行年、ページの順に記した。それぞれの文献は巻末の文献一覧で確認できる。文章内で文献を挙げる際、人名を（ ）の前に出す場合がある。

・書名、新聞・雑誌名は、日本語では『 』、欧文ではイタリックで表記する。

・キーワードには原綴を記す。

・引用したインタビュー情報は録音記録がある場合は（記録媒体管理番号、日付、場所）、録音記録のない場合は（筆者インタビュー、日付、場所）と記す。発言内容から本人の実名を出すことが適当でないと筆者が判断した場合、プライバシー保護のため仮名にする。

・外国語のカタカナ表記はつぎのとおりにする。

① スペイン語に限らず2語以上から成る句の表記は、原綴における単語の切れ目にナカグロ（・）をいれる。

【例】Black Carib ブラック・カリブ

ただし地名はナカグロをもちいずに記す。

【例】La Ceiba ラセイバ

② 「y」「ll」は原則としてジャ行音にする。

【例】Villanueva ビジャヌエバ

③ 音引きはなるべく使わないよう努めたが、適宜使いわけた。

【例】Salvador サルバドル

④ 地名の表記は慣用にしたがう。

【例】Honduras ホンジュラス

## 問題の所在

逃亡奴隷の社会は根本的な問題を提起する。奴隷船で運ばれたこと、そしてプランテーションの奴隷制しか共通の経験をもたないさまざまな出自の人びとが、どのように共同体をつくったのか？つまり、社会はどのようにできるのか？

エリック・ホブズボーム「森の逃亡奴隷」  
(Hobsbawm 1990: 46)

本研究の目的は、中米ホンジュラスで黒人といわれる人びとが「カリブ海小アンティル諸島のセントビンセント島に由来するエスニック集団ガリフナ Garifuna」を名のる社会背景を検討することである。分析対象はホンジュラスで黒人とよばれる人の社会運動である。より大きな文脈に位置づけると、黒人と一括され、歴史なき存在として客体化されてきた人びとが「ガリフナ」として主体性を獲得し歴史をつくるプロセスが本稿の分析対象となる。

アフリカならびにアフリカ系辞典『アフリカーナAfricana』<sup>1</sup>によると、ガリフナとは、17世紀半ば、カリブ海のセントビンセント島に難破した奴隷船から逃げた黒人奴隷が、島にいた先住民カリブ族Caribeと混淆して形成されたといわれるエスニック集団である。ガリフナは黒人の逃亡奴隷と先住民カリブ族の混血とされ、かつて英語の呼称では黒い先住民を意味するブラック・カリブBlack Caribとも呼ばれた。1797年、ガリフナはイギリス人によってセントビンセント島からホンジュラスに追放されたといわれ、以来、ホンジュラスを中心に中米のカリブ海沿岸に多く住む（Appiah and Gates 1999: 811-813）<sup>2</sup>。2001年には、ホンジュラスとグアテマラ、ニカラグアとベリーズに住むガリフナといわれる人の音楽・舞踊・言語がユネスコの第1回世界無形文化遺産に認定された<sup>3</sup>。ガリフナに出自をもつホンジュラスの文化芸術スポーツ省元副大臣サルバドル・スアソによると、ガリフナという名称は先祖がかつて呼ばれていた「カリブ族／カリブ海の人Caribe」から派生した自称であり、「ガリフナの人種は黒人であるが、言語や文化は先住民である」という（Suazo 2002: 3-5; 筆者インタビュー、2008年2月28日、テグシガルバ）。

ところで、1990年代以降急速に進展した中米黒人史研究から、ガリフナ研究がおこなわれてきたホンジュラスのカリブ海沿岸には植民地時代から多様な黒人とみなされる人がい

<sup>1</sup> 『ブリタニカ百科事典』に匹敵する黒人の百科事典の刊行をめざしたアフリカ系アメリカ人の社会学者 W・E・B・デュボイス（1868-1963）の遺志を継いで、1999年にアンソニー・アピア Anthony Appiah とヘンリー・ルイス・ゲーツ Henry Louis Gates が中心になり編纂したアフリカ人とアフリカ系アメリカ人に関する百科事典（Appiah and Gates 1999: ix）。

<sup>2</sup> ガリフナといわれる人の人口推計および国別分布は第1章1節「ガリフナ人口」を参照せよ。

<sup>3</sup> UNESCO. “Language, Dance and Music of the Garifuna.” <http://www.unesco.org/culture/ich/R/L/00001> [2014年8月19日閲覧]。

たことがわかる。1992 年、歴史家マリオ・アルゲタ Mario Argueta (1992) が『歴史なき人びとの歴史 1900–1948 年』を刊行し、20 世紀初頭のカリブ海沿岸で国民国家統合上の問題になった英語話者の黒人移民といわれる人びとの子孫が主流社会で等閑視され続けていることをあきらかにした。本稿が論じるとおり、国民国家形成期の英語話者の黒人移民問題以来、主流社会でガリフナや黒人とみなされるさまざまな出自の人は黒人と一括され、歴史なき存在として客体化されてきた。

一方、1955 年からガリフナを研究する米国の人類学者ナンシー・ゴンザレス Nancie Gonzalez [sic]<sup>4</sup> は「ガリフナを形成するすべての祖先のうちひとつだけが思い出される傾向にあり、新しく創造されるすべてのものがそれ〔ガリフナ〕に当てはめられている。＜中略＞すべてがガリフナ化 Garifunized している」と述べる (Gonzalez 1988: 8 カッコ内筆者)。さらに今日では、民族運動の成果ならびに多文化主義的政策の帰結として「ホンジュラスをガリフナ化しよう、世界をガリフナ化しよう Vamos a garifunizar Honduras y vamos a garifunizar el mundo」というスローガンのもと、黒人とみなされるガリフナの人びとはガリフナ文化をホンジュラス内外に積極的に広めている (Lacayo Sambulá 2011: 11)。後述するとおり、ガリフナとよばれる人びとは歴史なき人びとといわれ、世代をこえてうけつぐ歴史をもたないにもかかわらず、セントビンセント島に出自をもつガリフナを名のる。他方、ガリフナ以外の出自を主流社会で主張する黒人といわれる人の動きはない。すなわち、さまざまな出自の黒人とみなされる人をガリフナという民族カテゴリーに引きよせる力がはたらいっている。しかし、その動態をあきらかにしようとする研究はおおくない。本研究では黒人といわれる人びとがガリフナを名のり、セントビンセント島に由来する自分たちの歴史を形成し、民族の境界を明確化させるガリフナ化のプロセスを社会背景に着目して検討する。

本稿では、ホンジュラスで黒人とよばれる人がガリフナを名のる理由とその経緯を検証するために、名和克郎の「民族論的状况」というつぎの理解をもちいる。「民族は実体として存在せず、『名』と実体をめぐる民族論的状况のみが存在する。＜中略＞『民族』は重層的なものとして存在する可能性を持ち、『民族』という単一の水準を設けるのは、例えば学者の側の作業でしかない」(名和 1992: 297, 305 カッコ内原文)。この指摘のとおり、研究者がガリフナと名づける人は状況におうじてさまざまな名称でよばれてきた<sup>5</sup>。「民族論的状况」という理解にもとづいて、黒人といわれる人びとがガリフナに収斂するガリフナ化のプロセスを名のる側だけでなく、名づける側からも問いなおす。この課題は人類学者ケビン・イェルビントン Kevin Yelvington が論考「ラテンアメリカとカリブ海地域におけるアフリカの発明」で「学術研究の過去との対話をつうじて」、「人類学の知が形成される状況に注目しなければならない」と述べ、提起する「アフリカ系アメリカ人に関する人類学研究の再歴史化」として当該地域で 2000 年以降盛んに取り組まれている人類学のテーマである (Yelvington 2006: 40, 79)。

<sup>4</sup> 彼女は米国東部に位置するメリーランド大学人類学の名誉教授であり、米国を拠点に活動している。そのため、名前は英語表記の読みにしたがいアクセントなしの「Gonzalez」とし、和文表記も「ゴンザレス」とする。

<sup>5</sup> 第 1 章 2 節「史料調査の検討」を参照せよ。

本稿は黒人といわれる人がガリフナを名のるガリフナ化のプロセスを検討するために、ピエール・ノラがいう「記憶と一体化した歴史の終焉」に集約される以下の理解を踏襲している。彼は「歴史認識のあり方全体が、メディアのせいで異常に膨張している」と述べ、私たちはメディアが記憶をつくり、記憶が歴史をつくる時代に生きていると説明する（ノラ 2002: 29-30）。日本の民間説話を対象にして記憶とメディアの関係を分析した秋葉弘太郎は、ラジオやテレビだけでなく、民間説話を検証する研究者の研究自体が分析対象の民間説話に影響をおよぼしていると述べる（秋葉 1993: 43）。Scott (1991: 262) によれば、とくに新世界のアフリカ系子孫の人びとは人類学ではない語りにおいてさえ、人類学を「文化の科学science of culture」とみなし、人類学者の説明にもとづいて自分たちの文化を理解してきたという<sup>6</sup>。このことを川田順造は「書かれたものから、口承の民話になったものもある」と表現する（川田 1992: 207）。以上の記憶に関する理解とともに、本研究では、歴史と記憶は現在における過去と未来の利害関係から形成される、という今日の人文科学の共通理解にもとづいて検討をすすめる。

本稿では、ガリフナ化のプロセスを長期と短期のふたつにわけて分析する。長期的観点から検証するために、ガリフナとみなされる人がホンジュラスに上陸したとされる 1797 年以降書かれた二次文献や先行研究にもとづく分析をおこなう。

短期的観点から、ホンジュラスで黒人といわれる人がガリフナを名のる理由を考察するために、第 1 にガリフナとよばれる歴史家や年長者の 1970 年代以降の語りを取りあげる。なぜなら、このころから、黒人とみなされる人がガリフナとして主流社会の新聞メディアで自分たちの歴史や文化を主張しはじめたからである。歴史なき人びとといわれ、伝承する歴史をもたない黒人といわれる人びとが、どのように自分たちの歴史や文化を伝えてきたのか検討する。

短期的な第 2 の観点として、ガリフナを名のる人びとの 1990 年代における権利請願に着目する。その理由は、疎外されていたガリフナとよばれる人の文化が国民文化として称賛されはじめた時期だからである。そしてまた、現在もつづくガリフナ共同体の土地問題の原因である政府と国際機関の大規模な観光開発がはじまる時期でもあったからである。土地問題は生活の基盤となる空間と資源だけでなく、政治的権限をめぐる争いの場として、権利請願の最重要課題になっている。

ガリフナを名のる人びとの権利請願を分析するために、本研究ではチャールズ・ヘール Charles Hale のネオリベラル多文化主義 neoliberal multiculturalism という概念をもちいる。かれは「多国籍機関に支援されたラテンアメリカの支配層は、〔少数民族の〕文化の権利を注意深く定め、新自由主義的計画に対する抵抗を抑えると同時に、文化の権利をもつ者たちを新自由主義の流れに巻きこんでいる」と主張する (Hale 2005: 13 カッコ内筆者)。つまり、少数民族を支援する多文化主義の理念が少数民族に弊害をもたらす新自由主義的計画を円滑にすすめる役割をはたしていると示唆する。

政治学者バン・コット Van Cott はヘールの概念を参照して新自由主義時代のラテンアメリカの多文化主義をふたつに分ける。第 1 は、チリやアルゼンチン、ペルーやグアテマラ

---

<sup>6</sup> 第 2 章で詳しく述べるが、歴史学が黒人とみなされる人をほとんど研究してこなかったことにも原因がある。



のようなネオリベラル改革が強く推し進められた国の多文化主義である。バン・コットはヘールにならい「ネオリベラル多文化主義」と呼ぶ<sup>7</sup>。第2は、エクアドルやベネズエラのように人びとの抵抗がネオリベラル改革を遅らせた国の多文化主義である。バン・コットは「民衆多文化主義popular multiculturalism」と呼ぶ (Van Cott 2006: 295)。2010年、アシズは論考「ラテンアメリカの国家改革と多文化主義の限界」でボリビアとコロンビア、メキシコの事例から結論する。「ネオリベラル多文化主義、またはネオインディヘニスモと呼ばれてきたものは、古いインディヘニスモに取ってかわった。多国籍開発機関の指導のもと、＜中略＞公然と同化主義的政策をおこなっている。＜中略＞所得分配はより不均衡になった」(Assies 2010: 71)。今日、ネオリベラルな多文化主義的政策の両義性がラテンアメリカで露呈している。

政治学者ウィル・キムリッカWill Kymlickaは、ネオリベラル多文化主義をマイノリティのシティズンシップを犠牲にして市場経済をうながし、国の連帯を犠牲にしてマイノリティを包摂する「連帯のない包摂inclusion without solidarity」とよぶ<sup>8</sup>。そのかわりに、かれはリベラル多文化主義liberal multiculturalismという、すべての人びとにおなじモデルのシティズンシップをあたえることで多様な文化が共存する多文化国家のありかたを模索している。そして、これまで多文化主義的政策は短期的影響にもとづく自由市場との関係が強調され、長期的観点から多文化主義的政策がシティズンシップにおよぼす影響があまり考察されていないと述べる (Kymlicka 2013: 119; 2015: 8)。そのため、本稿では、政府が黒人とみなされる人を対象にする政策をはじめた1970年代にさかのぼり検討することで長期的観点から黒人といわれる人の包摂を分析する。

その一方、シダーSiederは「民族の違いを認めるシティズンシップの拡大は、＜中略＞市民権の保障が弱く、社会経済的権利がほとんど存在しない大陸〔ラテンアメリカ〕で何を意味するのだろうか」とラテンアメリカにおける多文化主義的政策に対して根本的な問題を投げかけている (Sieder 2005: 301 カッコ内筆者)。この指摘はとくに重債務貧困国ホンジュラスに当てはまる。なぜなら、脆弱な政治経済構造が原因で、本稿が対象にする少数民族の問題以前に、ホンジュラス人全般の社会保障が乏しいからである。そのため政府への信用は低く、国民意識も弱い。テグシガルパに住む弁護士ホセは「ホンジュラス人はホンジュラスのものに誇りをもたない。ナショナル・アイデンティティがないことが問題だ」と言う (筆者インタビュー、2010年3月20日、テグシガルパ)。民間人だけでなく、自由党のカルロス・ロベルト・レイナ政権期 (1994–1998年) の文化芸術スポーツ省大臣ロドルフォ・パストル・ファスケジェ Rodolfo Pastor Fasquelle も論考「だれが祖国をつくったのか？」で「我われは、ホンジュラスにナショナル・アイデンティティがない、または弱い

---

<sup>7</sup> バン・コットはボリビアの先住民運動を分析し、「ネオリベラルな異文化理解 neoliberal interculturalism」や「自由主義的インディヘニスモ liberal indigenism」という概念を打ち出したグスタフソン Gustafson (2002: 274) も参考になっている。

<sup>8</sup> キムリッカはカナダの移民問題の文脈でネオリベラル多文化主義を「連帯のない包摂」とみなしている。一方、移民を国の福祉政策から排除する福祉排外主義 welfare chauvinism をマイノリティを犠牲にして国を連帯させる「包摂のない連帯 solidarity without inclusion」とよぶ (Kymlicka 2015: 8)。

とよく聞く」と述べていた (Pastor Fasquelle 2002: 299)。ホンジュラス人の国民意識の低さは政府の統治能力の低さを表しているといえよう。ホンジュラスで多文化主義的政策が導入された背景には、もともと弱い政府の求心力をたかめる思惑があったのである。

本稿が詳述するとおり、1990 年代以降、外圧を受け国民党のラファエル・リカルド・カジェハス Rafael Ricardo Callejas 政権が実施した構造改革の結果、ホンジュラスの人びとは困窮し、政府への不信がたかまっていた。とくに、少数民族の人びとは国際機関や外国資本の開発プロジェクトが原因で共同体の土地を奪われていた。そのため、外国資本を優遇する政府を、先住民やガリフナといわれる活動家は「企業家国家 Estado empresario」と批判してきた。政府と国際機関は補償として多文化主義的プロジェクトを実施してきたが、少数民族の人びとはプロジェクトの短期的な利益と引きかえに長期的な展望をうしないつつある。

その一方、国外ではつぎのとおり、ホンジュラスは国際社会の一員としてふさわしい社会インフラを兼ねそなえる国として取りあげられている。自由党のロベルト・ミチエレッティ Roberto Micheletti が大統領を務めていた 2009 年 12 月、経済誌『ラテン・ビジネス・クロニクル Latin Business Chronicle』は、ホンジュラスがラテンアメリカで 2 番目にグローバル化した国になったと報じ、外資参入が進んでいることを明らかにしている (Chronicle Staff 2009) <sup>9</sup>。

翌年の 2010 年、国連開発計画 UNDP 顧問パブロ・パスカル Pablo Pascale はホンジュラスをブラジル、コロンビア、エクアドル、パナマ、ウルグアイと共にアフリカ系子孫を対象にしたアフターマティブ・アクションがある国として注目した (Pascale 2010: 8)。つぎの図 1-1 はアフリカ系子孫および差別に関する各国の法的取り組みをあらわしたものである。国際研究機関インターエージェンシー・コンサルテーション・オン・レース・イン・ラテンアメリカ Inter-Agency Consultation on Race in Latin America はホンジュラスを「アフリカ系子孫を対象にした重要な反差別法がある国」に位置づける。その理由として同機関は、憲法第 60 条で人種 raza にもとづく差別を禁止している点や、政府が 1960 年に国際労働機関 ILO の「雇用及び職業についての差別待遇に関する条約」(第 111 号)と 2002 年に国連の「あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約」を批准したこと、さらに 4 月 12 日をガリフナ文化の日に制定したこと、そして大統領令で「人種差別と外国人嫌悪に反対する全国委員会 Comisión Nacional contra la Discriminación Racial, el Racismo y la Xenofobia」をつくることを決めた点をあげている (Inter-American Dialogue 2004: 5)。調査対象 19 カ国のうち、アフリカ系子孫とみなされる人を対象にした反差別法がある国はブラジル、コロンビア、キューバ、エクアドル、ニカラグア、ペルー、ホンジュラスの 7 カ国だけである。後述するとおり、2000 年以降、ホンジュラスでガリフナとよばれる閣僚が何人もあらわれており、国際機関はホンジュラスをアフリカ系子孫といわれる人の問題に取りくむ国として評価し、アフリカ系子孫の社会参加を目的にする国際会議をホンジュラスで幾度も開催してきた。

---

<sup>9</sup> GDP に占める財・サービスの輸出入、外国直接投資、観光収入、海外送金の割合、インターネットの普及率から計算。



図 1-1 アフリカ系子孫と差別に関する各国の法律

出典：Inter-American Dialogue. “Constitutional Provisions and Legal Actions Related to Discrimination and Afro-Descendant Populations in Latin America.” *Race Report*, August 2004, p.1 から筆者作成

上記のとおり、ホンジュラスの多文化主義的政策は国内と国外、および国際機関と受益者で評価が異なる。このような多文化主義の特質を哲学者スラヴォイ・ジジェク Slavoj Žižek は 1997 年の論考「多文化主義、または多国籍資本主義の文化ロジック」で次のとおりいちはやく指摘していた。「グローバルな資本主義の理想的なイデオロギーが多文化主義である。＜中略＞伝統的な帝国主義的コロニアリズムとグローバルな資本主義の自己植民地化の関

係は、西洋の文化帝国主義と多文化主義の関係とまさしくおなじである。グローバルな資本主義が国民国家本国を植民地化せずに植民地化し、多文化主義が西洋の特定の文化に依拠せずにローカルな文化に対するヨーロッパ中心主義的な価値観をささえているのと同じである」(Žižek 1997: 44)。この説明にしたがえば、多文化主義は寛容な支配の論理であることがわかる。すなわち、少数民族に対する政府や国際機関の政策を正当化する論理と言えよう。ガリフナといわれる人びとの権利請願を分析対象にして、多文化主義的政策の功罪を検証する。

以上の問題設定のもと、筆者は2005年9-10月、2006年9-10月、2008年2-3月、2009年10-2010年10月、2011年2-3月、2012年2-3月にホンジュラスにおいて、2012年9月にニューヨークで文献調査とフィールド調査を実施した。

文献調査は首都テグシガルパの国立公文書館 Archivo Nacional de Honduras と民族歴史公文書館 Archivo Etnohistórico、ホンジュラス国立自治大学 Universidad Nacional Autónoma de Honduras とフランシスコ・モラサン国立教育大学 Universidad Nacional Pedagógica Francisco Morazán でおこなわれた。

フィールド調査は、参与観察と半構造化および非構造化インタビューでおこなわれた。おもな調査地はホンジュラス内陸部の首都テグシガルパとカリブ海沿岸である。首都テグシガルパではつぎの機関でインタビュー調査をした。ホンジュラス国立民俗舞踊団 Ballet Folklórico Nacional de Honduras、ホンジュラス土着民同盟 Confederación Autóctona de Honduras、先住民アフリカ系子孫省 Secretaría de Estado en los Despachos de Pueblos Indígenas y Afrodescendientes、文化芸術スポーツ省 Secretaría de Cultura, Artes y Deportes、ホンジュラス人類学歴史学研究所 Instituto Hondureño de Antropología e Historia である。カリブ海沿岸のインタビュー調査は、アトランティダ県の港町ラセイバ La Ceiba とテラ Tela を中心に近郊のガリフナ共同体でおこなわれた。ほかに先住民レンカ族といわれる人が住む内陸部インティブカ県の市エスペランサ Esperanza と、国際会議が開かれたコロン県の町トコア Tocoa でも調査をした。



図 1-2 調査地テグシガルパとラセイバ、テラの位置（筆者作成）

港町ラセイバはホンジュラスで 3 番目に大きな街といわれ、人口 157249 人を有する (Municipio de La Ceiba 2005: n. pág.)。20 世紀なかばまでバナナの積出港としてさかえ、20 世紀後半以降は観光地としてホンジュラス内外にひろく知られている。首都テグシガルパから 397 キロメートルの距離に位置し、飛行機で 1 時間、高速バスで 8 時間かかる。港町ラセイバの調査理由はふたつある。第 1 は、ガリフナといわれる人びとが 1977 年に設立した「ホンジュラス黒人友愛協会 Organización Fraternal de Negros Hondureños、略称 OFRANEH」<sup>10</sup>と、1992 年に設立した「民族共同体開発機構 Organización de Desarrollo Étnico Comunitario、略称 ODECO」の事務所があったためである<sup>11</sup>。第 2 の理由は、英語話者黒人とみなされる人がおおく住み、ガリフナとよばれる人との比較調査に適していたからである。



図 1-3 調査地ラセイバの中心部（筆者作成）

<sup>10</sup> 2010 年、イペロアメリカ 21 か国のアフリカ系子孫組織 411 団体の 40%にあたる 161 団体が参加する調査がおこなわれた。その結果、1980 年以前に合法的に設立されたアフリカ系子孫の組織は 2%、3 つの組織だけであった。50%以上は 2000 年以降に設立されたという (Pascale 2010: 7, 20)。1977 年創設の OFRANEH はきわめて先駆的な組織といえる。

<sup>11</sup> OFRANEH は各共同体の代表者から形成され、現在ミリアム・ミランダ Miriam Miranda が代表をつとめる。2012 年 9 月、OFRANEH 事務所はラセイバ中心部から近郊のガリフナ共同体サンボクリーク Sambo Creek に移った。ODECO は OFRANEH 出身のセレオ・アルバレス・カシルド Céleo Alvarez Casildo が統括する NGO 組織である (筆者インタビュー、2012 年 9 月 17 日、ニューヨーク)。

港町テラはラセイバの西 100 キロに位置し、人口は 92817 人である (Municipio de Tela 2003: n. pág.). テラには 1912 年から 1976 年までテラ鉄道会社があり、バナナの運搬の拠点となっていた。首都テグシガルパから高速バスで 6 時間、ラセイバからは 2 時間かかる。港町テラを選択した理由はふたつある。ひとつは、分析対象となるガリフナ共同体の土地問題がテラ近郊のサンファン San Juan 共同体とトルナベ Tornabé 共同体で起きているからである。もうひとつは、トルナベで、第 5 章のおもな対象となる世界銀行の貧困削減戦略「われわれのルーツ Nuestras Raíces、略称 NR」がおこなわれていたからである。



図 1-4 港町テラおよびガリフナ共同体サンファンとトルナベ (筆者作成)

つぎにデータ分析の枠組みを説明する。本稿では人種概念をめぐる利害関係がおもな分析対象となっている。本稿でもちいる人種概念はつぎのふたりの人類学者の理解を踏襲している。ひとつは『ラテンアメリカの人種とエスニシティ *Race and Ethnicity in Latin America*』の著者ウェードの見解である。彼は「人種は生物学的に存在しない。＜中略＞人種は社会的構築物であり、人種概念は単なる考えに過ぎない。人種の優劣は歴史的につくられたものであり、そのルーツはヨーロッパ人の植民地支配にある」と述べる。人種という言葉は 16 世紀はじめにヨーロッパの言語にあらわれ、1800 年ごろまでおなじ出自の人びとの集まりを意味し、外見は重要な判断基準ではなかった。19 世紀、ヨーロッパにおける生物学の出現をきっかけに出自のちがいにもとづいていた人種概念が生物学的なちがいとみなされるようになった。さらに、ヨーロッパの人びとがアフリカ大陸や南北アメリカ大陸、アジア太平洋地域で植民地支配や奴隷制をとおして接触したさまざまな出自の人についての情報をもとに、ヨーロッパの人びとを頂点とする人種概念の序列化が形成された。そのため、人種概念には各地の異人種間の歴史的な権力関係がうめこまれており、地域と時代によってちがうという<sup>12</sup>。たとえば米国とラテンアメリカでは黒人のとらえ方が異なり、米国では

<sup>12</sup> ブラジルの人種問題を調査する社会学者テルズ (2011: 45-46) も「人種概念と人種に関する

黒人の血が一滴でも混ざっていたら黒人といわれる一方、ラテンアメリカでは混血の黒人とみなされる人は黒人とよばれない場合があると説明する (Wade 2010: 5-13) <sup>13</sup>。

彼の指摘をふまえ、本稿では次の 3 点に留意した。第一は、黒人とみなされるガリフナに言及した英語とスペイン語の歴史資料を検討する際、人種概念が地域と時代、言語によってちがうことを念頭において分析した。第二に、ホンジュラスにおける黒人の概念の変遷に留意して、黒人といわれてきた人びとのガリフナ化の過程を検討した。第三に、黒人と定義されてきたガリフナの人びとが 1990 年代以降、先住民や土着民 *autóctono* を名のりはじめた経緯を、先住民と土着民という人種・民族概念が 1990 年代のホンジュラスにおいてもつ社会的背景に注目して検証した。

本稿が依拠したもうひとつの人種概念は、竹沢が『人種概念の普遍性を問う』で提起した 3 つの人種概念である。竹沢は「社会分化した集団の差異が、世代を超えて継承され、＜中略＞その差異が明瞭な優劣や排除をともなって政治・経済・社会制度に表現される」人種概念を「小文字の *race*」と呼び、「科学的概念として流通する人種」を「大文字の *Race*」と呼ぶ。そして、社会で劣位の人種とされたさまざまな集団が支配へ抵抗し、マイノリティの主体自身を再編させるなかで、新たな積極的な意義づけを与えた人種概念を「抵抗の人種 *Race as Resistance*」と呼ぶ (竹沢 2005: 29-31)。

竹沢の 3 つの人種概念に着目する理由はふたつある。ひとつは竹沢が「小文字の *race*」と「大文字の *Race*」という人種概念をもちいて「人種」の過去をふりかえるだけでなく、「抵抗の人種」という未来志向の人種概念をもちいて、「人種」の未来を変えようとしているからである。竹沢の理解はホンジュラスの「小文字の *race*」と「大文字の *Race*」を分析して黒人の歴史をふりかえり、黒人とよばれるガリフナの請願運動という「抵抗の人種」をつうじて、ホンジュラスの「人種」の未来を問う本研究のテーマと合致する。そして、もうひとつの理由は、この視座がフィールドワークで収集した人びとの語りを分析するために本稿が依拠するムディンベ Mudimbe (1994) の言説の 3 分類に通じるからである。

ムディンベは『アフリカの考え *The idea of Africa*』で、調査した人びとの語りを 3 つに分ける。第 1 は民衆の語りである。伝説や歴史のもととなり、おおやけに語られることはないが、永続する人びとの理解である。第 2 は学問のように、自分の考えを批判的に検討し、相対化する語りである。第 3 は、他者の語りを問いなおすと同時に自身の考えもとらえなおすものである。かれによると、3 つのレベルは交錯し、とくに、第 3 のレベルで小文字の歴史 *history of histories*、すなわち、主流社会の大文字の歴史 *History* でとりあげられてこな

---

用語の使用についての注記」で同様の説明をする。「社会学における統一見解として、人種は、生物学的な論拠をほとんどもしくはまったく持たない社会的な構成概念である。＜中略＞人種のような概念の内在する意味は言語によって大きく異なっている。＜中略＞ブラジルでは一般に『肌の色』が用いられるのに対し、合衆国においては『人種』がより一般的である」。

<sup>13</sup> ホンジュラスで混血の黒人といわれる米国のバラク・オバマ大統領は黒人か混血か意見がわかれている。ホンジュラスの主流社会を形成する混血とみなされる大学生カティ・エスメラルダ・ロペスは「オバマ大統領は混血であり、黒人ではない」と述べた (筆者インタビュー、2011 年 3 月 15 日、テグシガルパ)。一方、黒人といわれるガリフナの人びとはオバマ大統領を黒人とみなしている。



かった歴史なき人びとの歴史が形成されるという (Mudimbe 1994: xiii-xiv)。本研究が主として取りあげる資料は第 2 の学問の語りと第 3 の再帰的な語りである。一方、筆者の語りは第 2 と第 3 の語りをときほぐした第 2 の語りに位置づけられ、1950 年代からガリフナを研究してきたゴンザレスのような伝統的な第 2 の語りではない。とくに、決して、第 1 の語り、すなわち調査地の人びとの考えそのものをあらわしているわけではないことを確認しておく。

本稿では人種をめぐる人びとの語りを分析するために、先に述べた竹沢 (2005) の 3 つの人種概念とムディンベの語りの 3 分類をつぎのとおり結びつけている。ムディンベの第 1 の民衆の語りは竹沢の「小文字のrace」に相当する。つまり「社会分化した集団の差異が、世代を超えて継承され、＜中略＞その差異が明瞭な優劣や排除をともなつて政治・経済・社会制度に表現される」人種概念である。第 2 の学問のように検討し相対化する語りとは「大文字のRace」、すなわち「科学的概念として流通する人種」に対応する。そして、ムディンベの第 3 の再帰的な語りは「抵抗の人種」に符合するものとして捉えている。つまり社会で劣位の人種とされたさまざまなマイノリティが支配へ抵抗するなかでマイノリティの主体自身を再編させ、あらたに積極的な意義づけを与えた人種概念である (竹沢 2005: 29-31)<sup>14</sup>。後述するとおり、本稿は各人種概念にしたがい章立てされている。

インタビュー対象は、黒人や先住民といわれる活動家、政府関係者や共同体理事、農民や漁師など少数民族の問題にかかわる人びとであった。インタビューはスペイン語でおこなわれた。ガリフナ 65 名、英語話者黒人 5 名、先住民レンカ族 5 名、先住民ミスキート族 7 名、先住民タワウカ族 1 名、混血 16 名が対象になった。21 歳から 68 歳の人びとにインタビューをした<sup>15</sup>。ガリフナといわれる人の 20-30 代のおおくは米国に出稼ぎに行き少ないことや、歴史的観点からの説明をもとめたため 40 歳以上が中心となった。

とくに、書籍を刊行した人びとに焦点をあてた。その理由はふたつある。ひとつは、ホンジュラス人の約 30%が読み書きができず、人びとの情報・教育格差が日本よりおおきいと筆者が感じるホンジュラス社会で、民族問題に精通した語り手を見つけるのは難しいと考えていたからである。もうひとつは、著作をもつ知識人こそ、本稿が参照する分析概念、ムディンベの第 3 の語り、すなわち主流社会の歴史で取りあげられてこなかった歴史なき人びとの歴史に関する言説を生産してきたと考えたからである。そしてまた、竹沢 (2005: 30-31) が主張する「抵抗の人種」、つまり、支配へ抵抗するなかで積極的な新しい意味を与えられた人種概念を形成してきたと筆者が考えるからである。

フィールド調査で留意したことを説明する。それは、2009 年に、アンドリュース Andrews (2009: 193) が「誰が、なぜ、アフリカ系ラテンアメリカ人を研究するのか？」と問題提起したように、今日、調査者の社会的立場および調査目的が注視されている点である。従来は調査者の客観性が問われたが、今日の社会科学では、知識の生産は権力とむすびついていることが周知されており、調査者の社会的立場が問われている。このことは、1998 年

<sup>14</sup> 先述の Wade (2010: 4) も人種概念を民衆の語り、学問の語り、政治的な語りと 3 つに分けて分析している。第 3 の人種概念を、竹沢は「抵抗の人種」、ウェードは「政治的な語り」と表現する。二人の表現は異なるが似た志向性をもつといえよう。

<sup>15</sup> 詳しくは情報提供者リストを参照せよ。

9月19日のホンジュラス紙記事のタイトル「考古学と人類学は現地の要請に応じるべき」が示すとおり、ホンジュラスでまさに問題となっている（*Honduras This Week*, September 19, 1998）<sup>16</sup>。現在のホンジュラスで外部の研究者は調査対象の要望に応えることが求められており、研究者と研究対象の関係がガリフナ研究がはじまった1950年代と大きく異なる。とくに、ガリフナといわれる人が外部の研究者に批判的な見解をもつことを、人類学者アンダーソンが2000年にテキサス大学に提出した博士論文に記していた。彼は調査中、OFRANEHのメンバーが「人食いantropófagosの異名をもつ人類学者antropólogosに用心していた」と述べる。OFRANEHは「人類学者は文化を博物館の標本のようにあつかう」だけでなく、「研究成果を調査したガリフナの人びとと決して共有しなかった」と非難していた（Anderson 2000: 65）。

さらに、カリフォルニア大学バークレー校の人類学博士号をもつベリーズのガリフナ知識人ジョセフ・パラシオJoseph Palacioによると、ガリフナ研究は50年以上にわたり外部の者が中心になりおこなってきたが、20世紀後半ガリフナがみずから研究しはじめたことでかわりは始めているという（Palacio 2006: 9）<sup>17</sup>。すなわち、今日では、研究対象であったガリフナといわれる人が外部の研究を参照して自分たちの文化を語り始めている。とくに、米国の大きな影響にさらされてきたホンジュラスの知識人たちは、国際機関がうながす多文化主義の潮流のもと、自分たちで自分たちの歴史をつくることを強く望んでいるとJoyce（2008: 57）はいう。このような状況下、調査はおこなわれ、筆者は首都と沿岸部で「所属機関はどこですか¿Cuál es su institución?」とガリフナとよばれる人にいくどもたずねられた。

---

<sup>16</sup> 同記事によると、外国人がホンジュラスの歴史を教えることは違法であるにもかかわらず、ホンジュラス人類学歴史学研究所の民族部門代表は12年間外国人であったという。記者は米国人の深い関与を「ヤンキー帝国主義」と糾弾している（*Honduras This Week*, September 19, 1998）。

<sup>17</sup> 第3章で説明するホンジュラス国立民俗舞踊団代表アルマンド・クリサント・メレンデス Armando Crisanto Meléndez は執筆活動もおこなってきた。米国ではホセ・フランシスコ・アビラ José Francisco Ávila などガリフナといわれる様々な人が英語とスペイン語で本を刊行している。

つぎの図1-5は、ガリフナ共同体の住民が調査中の筆者を写したものである。筆者が住民に筆者のカメラを貸したところ、筆者の気がつかないうちに住民が筆者を撮影していた。撮影された時、筆者はフィールド・ノートに執筆しており、カメラを全く意識していなかった。後日出てきたこの写真から、他者である筆者に向けられた調査地の人びとのまなざしをあらためて実感した。調査する者が調査されていると言えよう。そのため、筆者は調査の客観的手法だけでなく、調査者と研究対象との関係、および調査の社会的状況が重視されていることを留意してフィールド調査をした。



図1-5【写真】ガリフナ共同体リオティント調査中の筆者（2010年6月2日調査地の住民撮影）

つぎに、調査状況を筆者個人のレベルと社会のレベルにわけて以下に記す。筆者と研究対象の個人的関係をあらわす例として、本稿でたびたび引用されるふたりの人物との関係を取りあげる。ひとは、筆者が2006年、首都テグシガルパでホンジュラス国立民俗舞踊団の一般開放講座「ガリフナの歴史」(図1-6)を受講し面識を得た歌手エルマン・アルバレス Herman Álvarez (65歳男性)である。歴史なき存在として扱われてきた人びとが自ら歴史を語る場として筆者はこの講座を注目し、受講した。2010年、筆者は彼の案内のもとカリブ海沿岸の港町テラ近郊のガリフナ共同体サンファン San Juan を調査した。



図1-6【写真】筆者が受講した国立民俗舞踊団のガリフナ講座(2006年8月2日筆者撮影)

ふたり目は、OFRANEH 副代表カルラ・ガルシア Carla García (40 代女性)である。筆者は第 2 章で登場するラセイバでホテルを経営する英語話者黒人といわれるマイケル(仮名)を通じて彼女と知り合いになった。先行研究とおなじく、筆者も彼女に調査の目的と内容を尋ねられた。そのため、筆者は 2012 年 9 月、ガリフナとよばれる人の土地問題を論じる内容をメキシコで発表する際、原稿の内容とスペイン語の確認を彼女に依頼した(金澤 2012a)。副代表は原稿の段階から筆者の調査内容を把握しており、調査を了解していた。筆者は副代表をつうじてガリフナ共同体の集会や国際会議に参加していた。

筆者は外部の調査者として研究対象のガリフナといわれる人に質問をするだけでなく、関係を構築するためにたびたび日本の歴史と文化をかれらに話した。たとえば、第 5 章の調査の際、ホンジュラス人が「日いつる国 el país del sol naciente」として知る日本の創世神話をはなした。その目的は、先住民および土着民と自己認識するガリフナとみなされる人がどれだけ土地に根ざした考えをもっているのかを確かめるためであった。キリスト教世界に生きるガリフナとよばれる人びとは、紀元前すなわちキリスト誕生以前の日本の創世神話や建国神話を興味深く聞いていた。その後、このインタビューをきっかけに、新世界で形成されたガリフナといわれる人びとの創世神話の検討へと調査が発展した。

つぎに、調査がおこなわれた社会背景を説明する。調査は、筆者が受講した国立民俗舞踊団のガリフナ講座のように、歴史がない存在として客体化されてきた人びとがローカルに自分たちの歴史を語るだけでなく、グローバルにも語りはじめている状況でおこなわれた。調査中の特筆すべきグローバルな出来事として、国連がアフリカ系子孫といわれる人の問題に取りくんできたことが挙げられる。2002 年、調査地のラセイバで国連の高等人権委員会が「第 1 回南北アメリカのアフリカ系子孫に関する地域セミナー Primer Seminario Regional sobre los Afrodescendientes de las Américas」をガリフナ組織 ODECO の協力のもと開催し、「ラセイバ宣言 Declaración de La Ceiba」を残していた(United Nations 2002)。ODECO は 1992 年の設立以来、さまざまな黒人の国際会議やワークショップを国際機関と開催し、ホンジュラス内外に黒人とよばれる人の問題を自ら発信してきた。

2011 年、国連の「アフリカ系子孫の国際年 Año Internacional de los Afrodescendientes」にラセイバで「第 1 回アフリカ系子孫世界サミット Primera Cumbre Mundial de los Afrodescendientes」が開催された(図 1-7)。近年増えているガリフナといわれる閣僚のひとり、先住民アフリカ系子孫省大臣ルイス・フランシスコ・グリーン Luis Francisco Green が出身母体であるラセイバの ODECO とともに式典の運営を担った。南北アメリカ大陸とアフリカ大陸からおおくの代表者があつまった(ODECO 2012)。このように、国連の活動をとおして、ガリフナ組織だけでなく、ポルフィリオ・ロボ政権もホンジュラスの黒人とみなされる人の問題に積極的に関与している最中、フィールド調査がおこなわれた。

そのため、人種・民族問題を調査する部外者の筆者をいぶかしげに見る民族運動関係者がおり、当初はインタビューをするのに制約があったといえる。しかしながら、時間の経過とともに、ほとんどの人は筆者に協力的になった。それは、彼ら、彼女らが抱える民族問題をホンジュラス内外に知らしめる意図からであったのだろう。他方、2014 年 1 月に廃止された先住民アフリカ系子孫省が稼働していた時期に調査をしていたことが筆者にとっておおきな利得であった。筆者は同省を訪れ、大臣にインタビューをしたり、政策立案会



議にオブザーバーとして参加する機会を得た。

2013 年 12 月 30 日、国連は「アフリカ系子孫の国際 10 年Decenio Internacional de los Afrodescendientes」を批准した。2015－2024 年までアフリカ系子孫とみなされる人を対象にしたさまざまなプロジェクトを企画している<sup>18</sup>。フィールド調査を終え、改稿作業中の現在、ガリフナ組織OFRANEHはニューヨークにすむガリフナとよばれる人が中心になり国連に事務所をもうけようとしている（筆者インタビュー、2012 年 9 月 17 日、ニューヨーク）。ガリフナ組織は国内での権利請願を重視する先住民組織とは異なり、現在も国外から政府に圧力をかける方法を模索している。

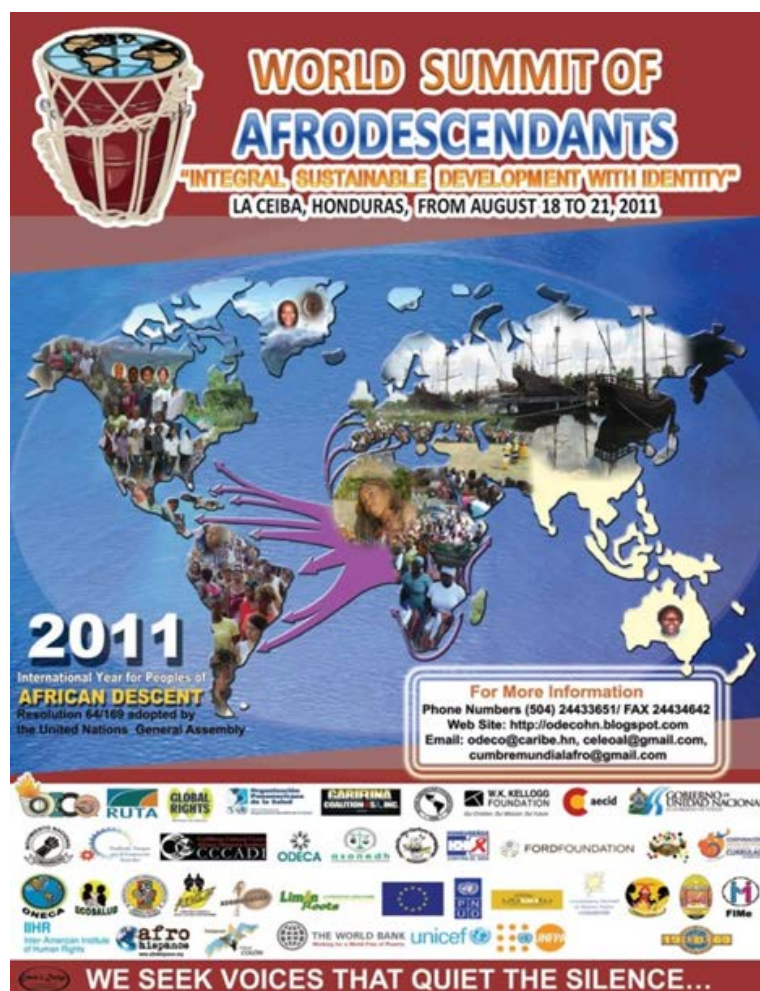


図 1-7 第 1 回アフリカ系子孫世界サミットのポスター

出典：ODECO ホームページ 2011 年 3 月 22 日記事

<http://odecohn.blogspot.jp/2011/03/unicef-unfpa-respaldan-primera-cumbre.html>〔2013 年 3 月 30 日閲覧〕。

<sup>18</sup> United Nations. “Asamblea General aprueba celebración de Decenio Internacional de los Afrodescendientes.” <http://www.un.org/spanish/News/story.asp?NewsID=28373#.VAKvGFicTIU>〔2014 年 8 月 30 日閲覧〕。

これまで筆者は米国の先行研究を参考にして、ホンジュラスで調査をしてきた。本稿では、さらに、日本の社会科学の動向および現地調査にもとづいて、筆者が参照してきた米国の先行研究を批判的にとらえなおす。この方法は、フランス、アフリカ大陸、日本で研究する川田順造が研究者自身の主観を相対化する手段として提起する「文化の三角測量」を念頭にいたものである。ここで確認したいことは、本稿は筆者の置かれた研究環境および社会的立場からうまれたひとつの解釈にすぎないことである（川田 2001: 328-329）。

最後に、ガリフナ化を名づけと名のりの双方から検証する本稿の構成をしめす。本稿は外部の研究者や政府関係者が黒人とみなされる人を客体化する名づけのプロセスをあつかう第1章と第2章、ならびに黒人といわれる人がガリフナとして土地に根ざした民族の歴史を形成していく名のりの経緯を追う第3章と第4章、第5章にわけられる。巻末には資料として、「1900年から2014年までの政治体制とおもな出来事」を載せ、ガリフナとよばれる人びとが対峙する各政権の特徴と社会背景を説明している。竹沢（2005）の3つの人種概念に位置づけると、第1章と第2章の名づけの過程では「小文字の race」と「大文字の Race」が分析対象となり、第3章と第4章、第5章の名のりの文脈ではおもに「抵抗の人種」が取りあげられる。

第1章では、ガリフナ化を名づけの観点から分析する。まず、先行研究を整理し、ガリフナといわれる人の特徴をまとめる。つぎに定説となっているガリフナの分類方法、研究者が史料調査とフィールド調査にもとづいてガリフナを名づける方法を検証する。この章では「科学的概念として流通する人種概念」、「大文字の Race」が分析対象となる。

第2章では、ガリフナ化が起きている調査地の歴史をふりかえる。調査地にいた黒人とみなされるさまざまな出自の人の歴史を植民地時代から20世紀前半まで記述する。とくに、権威主義的統治体制がしかれていた20世紀初頭、カリブ海沿岸のバナナ・プランテーションで英語話者の黒人移民問題がおき、それ以来、優生学にもとづくホンジュラスのナショナリズム「混血思想」が原因で黒人とみなされる人は等閑視されてきたことを説明する。ここでは、ホンジュラスで世代を超えて継承されてきた優劣や排除をとまなう人種概念「小文字の race」と科学的な人種概念「大文字の Race」の融合により生じた黒人とみなされる人をめぐる社会問題をあつかう。

第3章では、世代をこえてうけつぐ歴史をもたなかった黒人とみなされる人びとが、1970年代にセントビンセント島にルーツがあるガリフナを名のり、ガリフナとして自分たちの歴史をつくりはじめるガリフナ化の萌芽期を記述する。1970年代以来ガリフナとよばれる人びとの文化をホンジュラス内外にひろめてきた国立民俗舞踊団代表の歴史家クリサント・メレンデスの活動を取りあげる。この章では、否定的なイメージをもっていたカリブ族 caribe、ブラック・カリブ black carib とよばれていた黒人とみなされる人の文化が、ガリフナという名称とともに新たに積極的な意味をもち、ホンジュラスの民俗文化になる経緯を描く。ここでは、メレンデスは軍政期にガリフナ文化を主流社会に組みこむために混血思想に則した形でガリフナといわれる人がもつ黒人性を表現していた点に留意して検証をすすめる。

第4章では、黒人とよばれる人が1990年代にガリフナを名のり活発に権利を請願しはじめるガリフナ化の外的要因を検討する。1980年代はじめに軍政がおわり、権威主義体制が

ら準民主主義および民主主義体制に移行した 1990 年代半ば以来、政府と世界銀行は少数民族を対象にする多文化主義的開発プログラム「我われのルーツ」を実施し少数民族の生活水準向上をうながしてきた。しかし同時に進められた国際機関主導の構造改革が原因でガリフナといわれる人びとは共同体の土地と資源と権限を奪われてきた。政府と世界銀行の援助と収奪という相反する政策にさらされた黒人とよばれる人びとは「抵抗の人種」として広まりはじめていたガリフナの名のもとに連帯をはじめた。国際機関の介入にともない 1990 年代に先鋭化した黒人とみなされる人の権利請願の社会背景を記述する。

第 5 章では、ガリフナを名のり権利を請願するガリフナ化が 1990 年代に先鋭化した内的要因を検討する。とくにガリフナ組織 OFRANEH が先住民と連帯し、先住民の権利を保障する国際法 ILO 第 169 号条約にもとづいて共同体の土地所有権をもとめる背景に着目して分析をすすめる。国際金融機関の新自由主義的な政策はラテンアメリカだけでなく、南アジアやアフリカでも民族問題をひきおこし、当該社会では先住民であるか否かが利害を決める要素となり、先住民という概念が各地の実情に照らしあわせて検討されはじめている (Aminzade 2003; Jefremovas and Perez 2011)。ガリフナといわれる人を事例にして、1990 年代にグローバルな「抵抗の人種」として捉えなおされはじめた先住民という概念の利害関係を考察する。さらにこの章では、ガリフナ化はホンジュラスで黒人とみなされる人が先住民というグローバルな「抵抗の人種」と、ホンジュラスの土地に根ざした人を意味する土着民という草の根の「抵抗の人種」に自己同一化する過程で起きていることを記し、ガリフナ化とは、歴史なき人びととみなされてきた新大陸の黒人が土地に根ざした歴史を形成する「黒人の先住民化」のプロセスであることを示す。

以上の作業をとおして、ガリフナを名づける側と名のる側の観点からガリフナ化の社会背景を検討し、ホンジュラスで黒人とよばれる人びとが土地に根ざした歴史を形成し民族の境界を鮮明化させていく「黒人の先住民化」を描く。



## 第 1 章 民族誌再読

25－48 項

要約につき削除

## 第2章 混血思想と黒人の排除

49－68 項

要約につき削除

### 第3章 民俗文化へ

69－91 項

要約につき削除

## 第4章 我われのルーツへ

92－107 項

要約につき削除

第 5 章 黒人から先住民、そして土着民へ

108－130 項

要約につき削除

おわりに

2009 年 5 月、ホンジュラスでクーデターが起きた。5 か月後の 2009 年 10 月、筆者は 1 年間の現地調査をはじめた。調査が進むにつれ、ガリフナといわれる人びとの生活が悪化している状況がうかがえた。クーデターが追い打ちをかけたかのようにであった。友人のガリフナはニューヨークに移住した。「子どものために、ホンジュラスの不安定な政治経済状況に見切りをつけた」と述べた（筆者インタビュー、2012 年 9 月 14 日、ニューヨーク）。

2009 年のクーデターが原因で、2006 年からホンジュラス人類学歴史学研究所代表をつとめるダリオ・A・エウラケ博士が解任された。彼は言う。「軍事クーデターが起こした政治危機は 2008 年末にホンジュラスではじまっていた世界不況の影響に拍車をかけた。ホンジュラス人類学歴史学研究所の収入は国際協力が凍結すると急激に減少した。＜中略＞米州開発銀行の資金援助が止まり、クーデター政府の文化省と観光省は我われが 2006 年から推進してきた文化政策を嫌った」（Euraque 2010: 34）。同研究所関係者は「今の代表は関係のないエンジニアが務めている。すべてが政治だ」という（筆者インタビュー、2009 年 11 月 3 月、テグシガルパ）。今日、ホンジュラスの少数民族を対象にした政策自体、風前の灯と言える。黒人や先住民に分類される活動家、さまざまな研究者が「現在、民族運動は衰退している」と指摘する。世界不況とクーデターが原因で、分析対象である国際機関と民族運動の影響が弱まっている最中調査はおこなわれた。

研究の目的は、ホンジュラスで歴史なき人びとといわれてきた黒人とみなされる人がガリフナを名のりホンジュラスに根ざした歴史を形成するガリフナ化のプロセスを名づける側と名のる側の観点から検討することであった。

第 1 章では、ガリフナ化を名づける観点から分析した。研究者はどのように黒人とよばれるガリフナを調査地にいる黒人とみなされるさまざまな出自の人から区別し、ガリフナと名づけてきたのか再検討した。つまり「科学的概念として流通する人種概念」、「大文字の Race」が分析対象であった。まず、研究者がガリフナとみなす人びとを表すと説明してきた歴史資料に書かれた人種・民族用語「カリブ」「ブラック・カリブ」「モレーノ」を分析しなおした。検証からこれらの名称はカリブ海地域や中南米、フィリピン諸島でも用いられており、ガリフナと考えられている人びとを特定する名称ではない可能性を示した。

つぎにフィールド調査を検証した。第 1 に、インフォーマントが海の向こうを指しながら答えた「ジュルメイ」はセントビンセント島を示しているという共通理解を検討しなおした。その結果、ジュルメイとセントビンセント島をむすびつける根拠を人類学者も当事者のガリフナとよばれる人びとも知らないまま、この理解が確立されてきたことをあきらかにした。第 2 に、ガリフナ語という言葉にもとづいて、黒人に分類されるさまざまな出自の人からガリフナとみなす人を析出する方法をといなおした。調査から、今日ではガリフナ語を話さないガリフナに範疇化される人や英語を話すガリフナとみられる人がおり、言語は判断基準にならないことをしめした。民族の境界は社会環境の変化にともないかわっており、黒人とみなされている人を研究者がガリフナと名づけるガリフナ化の前提は今日揺らいでいる。

第 2 章では、ガリフナ化が起きている調査地の歴史を記述した。調査地に流入した黒人とみなされる人びとの多様な歴史を植民地時代までふりかえり、ホンジュラスにおける「小

文字の「race」の形成過程をとりあげた。植民地時代、調査地にはスペイン人やイギリス人、フランス人が労働力として人口の少ない先住民のかわりに奴隷化された黒人をアフリカ大陸や西インド諸島から導入していた。20 世紀初頭、調査地一帯では英語話者の黒人移民が国民国家統合上の問題になり、英語話者黒人の排斥運動がおきた。以来、国民国家統合理論「混血思想」が原因で黒人にグループ分けされるさまざまな出自の人びとは黒人と一括され、「歴史なき人びと」とよばれてきた。このような黒人としてとらえられている人びとの過去に対する主流社会の無関心と忘却は多様な出自の黒人とみなされる人びとを単純化してあらわしてきたことに示されている。英領カリブ海のさまざまな島から来た黒人移民とその子孫を英語話者黒人と一括するだけでなく、英語話者黒人とガリフナもひとまとめにして黒人とよんできた。

ところが 1990 年代後半、黒人として一括されてきた人びとのあいだに違いが生じる。ガリフナとよばれる人びとは「我われのルーツ」とメディアで報じられ、「我われ」を名のる多数派の混血の人びとの構成要素とみなされるようになった。一方、英語話者黒人と認識される人びとは自他ともに認める「よそ者」であり続けている。他方、ガリフナや英語話者黒人とみなされる人びと以外の黒人のカテゴリーは学術的にも制度的にも存在しない。すなわち、植民地時代に流入した奴隷化された黒人の子孫やスペイン語しか話さない黒人、混血化した黒人という概念はない。ガリフナ化が起きている調査地には、ガリフナに範疇化される人びとをホンジュラス社会の一員とみる一方、英語話者黒人と考えられる人を「よそ者」とみなし、ガリフナと英語話者黒人以外の黒人とみなされる人びとの過去を等閑視する混血思想にもとづく地域の歴史があった。

第 3 章では、ガリフナ化の萌芽期を記述した。主流社会から看過されていた黒人とみなされる人びとが 1970 年代、政府主導の観光開発を契機にガリフナとして名のりをあげ、ホンジュラスの民俗文化に組みこまれる経緯を描いた。1976 年以来国立民俗舞踊団代表をつとめ、ガリフナ文化の啓蒙活動に従事してきたクリサント・メレンデスの活動を取りあげた。メレンデスはネガティブなイメージをもつガリフナ文化をガリフナといわれる人びとに新しく積極的な意味をもつかたちで提示してきた。さらにメレンデスは欧米の歴史研究の語りを利用して、「歴史なき人びと」といわれ受けつぐ歴史をもたない自分たちの歴史をたちあげる機会をつくった。竹沢の 3 つの人種概念に位置づけると、世代を超えて受けつぐ「小文字の race」が存在しなかったガリフナを名のる人びとが、自分たちに関する局外者の「大文字の Race」を利用して「抵抗の人種 Race as Resistance」を志向するなかで自分たちの「小文字の race」を創りだしたといえる。

一方、メレンデスは主流社会の混血の人びとにたいしてはガリフナ文化の混血性を強調し、黒人であることや差別の問題にはあからさまにふれず、混血思想に迎合する形でガリフナ文化を表現してきた。メレンデスは体制の枠組みのなかでガリフナ文化の存在を主張することで、権威主義的な政治体制がしかれていた 1970 年代以来今日まで 40 年以上にわたりガリフナ文化を普及し続けることを可能にしてきた。黒人とみなされてきた人びとがガリフナを名のるガリフナ化は主流社会のわくぐみのなかでおきてきた。

第 4 章では、1990 年代に黒人といわれる人がガリフナを名のり権利を請願するガリフナ化が進展した外的要因を分析した。1990 年代、世界銀行をはじめとする国際機関は人種や民族にもとづく差別を国や地域の経済発展を疎外する要因とみなし、各国に多文化主義的

政策の導入をすすめた。多文化主義的政策は 1980 年代に行きづまっていた政府主導の「上から」の経済発展にかわる「下から」の経済発展モデルとして立案されていた。その結果、ホンジュラスで国際機関主導の多文化主義的な観光開発がはじめられた。政府と国際機関の大規模な観光開発にともない、ガリフナ文化だけでなく、ガリフナ共同体の土地も観光資源として注目され、ガリフナとよばれる人びとの社会進出がすすんだ。しかし同時に、政府と国際機関の構造改革と観光開発が原因でガリフナ共同体は土地と資源と権限をうばわれ、権利請願を活発化させた。1995 年、政府と世界銀行は少数民族にたいする構造改革の影響を緩和させるために少数民族を対象にする多文化主義的開発プロジェクト「我われのルーツ」を開始した。

検証から、少数民族を支援する政府と国際機関の多文化主義的政策は、新自由主義的開発計画に対する少数民族の抵抗をおさえると同時に、少数民族が新自由主義の流れにくみこまれるように機能するネオリベラル多文化主義にもとづいていると主張した。政府と世界銀行の新自由主義的な多文化主義的政策は、ガリフナを名のる人びとの文化だけでなく、人びとや住む地域も商品化し、市場経済にとりこんだ。とくに、政府と国際機関がガリフナといわれる人のあいまいな土地所有権を明確にするためにおこなった土地制度改革は土地取引を円滑にし、ガリフナ共同体で土地の個人所有をうながした。その結果、個人主義がつよまり、急増するアメリカ合衆国への出稼ぎとあいまり、共同体内部の結びつきが弱まっていった。すなわち、国際機関主導の開発プロジェクトによる援助と収奪が原因でネオリベラルな価値観が共同体に蔓延し、伝統的な価値観を破壊していった。

キムリッカの表現を借りれば、ホンジュラスにおけるネオリベラルな多文化主義的政策の特徴は、マイノリティのシティズンシップを犠牲にして市場経済を促し、国の連帯を犠牲にしてマイノリティを包摂する「連帯のない包摂」といえる。そしてまた、市場経済のためにマイノリティを犠牲にして国を連帯させる「包摂のない連帯」といえよう (Kymlicka 2013: 119; 2015: 8)。

第 5 章では、黒人とよばれる人びとがガリフナを名のり権利を請願するガリフナ化が 1990 年代に盛んになった内的要因を分析した。まず、観光開発が原因で土地を奪われたガリフナを名のる黒人たちがガリフナの歴史と先住民の権利を保障する国際法 ILO 第 169 号条約を根拠にして共同体の土地所有権を請願する経緯を検討した。ガリフナ組織が依拠する同条約は、植民地時代から領土内に住んできた人びとの子孫を「先住民族」とさだめる。そのため、植民地時代の 1797 年にセントビンセント島から上陸したとされるガリフナは同条約がさだめる「先住民族」として権利を保障される。さらに、ILO 第 169 号条約は批准国に法的拘束力を持つ先住民に関する唯一の条約であるため、ガリフナを名のる人びとは自分たちの歴史を根拠にして 1994 年に政府が批准した同条約の遵守をもとめてきた。黒人といわれるガリフナの人びとが先住民運動のレトリックを用いる背景には、黒人とみなされる人の権利を保障する法律や憲法の条文がホンジュラスに存在しないことがあげられる。1990 年代まで黒人とみなされる人びとは国家の法観念から排除され、シティズンシップを与えられてこなかった。1990 年代、黒人とみなされるガリフナの人びとは先住民運動の影響を受けて ILO 第 169 号条約に自分たちの歴史を照らしあわせ権利を請願していくなかで自分たちの「小文字の race」をつくっていったといえよう。

つぎに、先住民を名のるガリフナの人びとを取りあげ、1990 年代にグローバルな「抵抗



の人種」とみなされるようになった先住民という概念がガリフナを名のる人びとの権利請願におよぼした影響を考察した。1990年代はじめまでホンジュラスで先住民という概念は「抵抗の人種」ではなかった。今日先住民を名のる人びとにとってもガリフナを名のる人びとにとっても、権利請願のための名称ではなかった。しかしながら、先住民の権利を保障するILO第169号条約やグアテマラなど近隣諸国の先住民運動の影響をうけ、ホンジュラスで先住民という概念が捉えなおされるようになった。さらに、少数民族のなかで最大の人口数をしめる黒人とよばれるガリフナを先住民と連帯させるために土地に根ざした人を意味する土着民という名称が権利請願の名称としてとりあげられた。その後、先住民や黒人とよばれる人びとのあいだに、先住民は人種にもとづく名称として、土着民は文化にもとづいて土地に根ざした人をあらわす名称としてひろがった。このようにして、土地に根ざした人を意味する土着民という名称が草の根の「抵抗の人種」として、民族運動関係者だけでなく、権利請願にかかわらないガリフナを名のる人びとに浸透した。土着民という名称は、歴史なき人びとといわれてきた黒人とよばれるガリフナがホンジュラスの土地に根ざした自分たちの歴史を自分たちでつくる過程で自分たちにひろめたといえる。そしてまた、ガリフナといわれる人が名のる土着民という名称には、ディアスポラの境遇にあると考えられてきた黒人とみなされるガリフナが先住民運動の影響を受け土地に根ざした歴史観を構築する「黒人の先住民化」があらわれているといえよう。

以上から、ホンジュラスで黒人とみなされる人がガリフナと名づけられ、名のりをあげるガリフナ化の社会背景について次のことがわかった。

第1章で検討したとおり、今日の研究水準から判断すると、ガリフナ研究で共通理解とされるガリフナを名づける方法、すなわち調査地にいる黒人とみなされるさまざまな出自の人びとのなかから、ガリフナと考えられている黒人を析出する方法は不十分である。既存の分析方法ではエスニック集団ガリフナの「民族の境界」を特定できない。今日、ガリフナと名づけられ、みずから名のる人びとは、セントビンセント島から来たとされる人びとの子孫かどうか定かではない。

それでは、なぜ、ホンジュラスで黒人とみなされる人びとはガリフナを名のるのか、調査からふたつの社会背景が指摘できる。

ひとつは、黒人に分類される人を包摂し排除する「国民国家統合理論と、ガリフナの経験を強調し、黒人性を十把一絡げにする文献が原因で西インド諸島人 *West Indians* の経験が取りあげられてこなかった」(Chambers 2010: 9)ことが挙げられる。第2章で述べたとおり、1990年代まで、ホンジュラスのメディアやアカデミズムで黒人とみなされる人はガリフナ以外言及されなかった。国民国家統合理論「混血思想」が原因で等閑視されていた黒人と考えられる人のさまざまな歴史に脚光が当たったのは、国際機関がネオリベラルな多文化主義的政策をホンジュラスに導入した1990年代以降である。英語話者黒人と範疇化される人は1990年代以降ホンジュラスで研究対象になり、政府の人口統計で調査されたのは2001年である。英語話者黒人としてとりあげられる人は20世紀初頭にカリブ海沿岸で国民国家統合上の問題になった英語話者の黒人移民の子孫であり、当時の問題を想起させる。一方、植民地時代の黒人は混血思想の影響で混血化していなくなったと理解されている。そのため、ホンジュラスで黒人とみなされる人にとって、主流社会の歴史認識にもとづいて権利を請願する根拠となる黒人とよばれる人の歴史はガリフナの歴史しかなかった。

ふたつめの社会背景として、ILO 第 169 号条約の影響が挙げられる。第 4 章で記述したとおり、ホンジュラスで黒人と理解されている人は政府と国際機関の観光開発と土地制度改革が原因で深刻な土地問題に直面した。しかしながら、第 5 章で説明したとおり、黒人と判断される人は混血化していなくなったという混血思想を背景に黒人とみなされる人は法的保護の対象になってこなかった。そのため、ホンジュラス黒人友愛協会は政府が批准した国際法 ILO 第 169 号条約に依拠して権利請願をおこなった。同条約は現在の国家が独立する以前から現在の領土内にいる人を「先住民族」と定義し、権利を保障している。したがってホンジュラス独立以前の 1797 年に上陸したとされるガリフナを名の人は、黒人に分類されるが同条約の定める「先住民族」として権利が保障される。一方、20 世紀初頭に流入した英語話者黒人の移民の子孫は独立後に来たため同条約の対象にならない。他方、植民地時代に黒人とみなされていた人びとは、先に述べたとおり混血化によっていなくなったという考えがホンジュラス社会に浸透している。ガリフナの歴史だけが同条約の対象となるホンジュラスで黒人とみなされる人の歴史であることがわかる。

ガリフナ化は以上に述べた黒人とよばれる人を等閑視する主流社会の歴史認識と法制度を背景にして生じている。すなわち、ガリフナ化は黒人に分類されてきた人が国民国家のわくぐみのもとで黒人であることや先住民であること、ホンジュラスの国民であると同時にカリブ海にルーツがあることを自覚し、自分たちの過去と未来を考えるなかでおきてきた。ガリフナ化のプロセスとは、「問題の所在」冒頭で引用したホブズボームの言葉に引きつけると、「さまざまな出自の人びとが、どのように共同体をつくったのか？つまり、社会はどのようにできるのか？」(Hobsbawm 1990: 46)、すなわち、多様な背景をもつ黒人とみなされる人びとがどのようにガリフナとしてまとまっていったのかというプロセスであった。

一方、英語話者黒人とよばれる人びとは 20 世紀初頭にきた移民の子孫であるため、ガリフナといわれる人と違い少数民族として研究者や政府機関に客体化される機会さえ 1990 年代までなかった。英語話者黒人と認識されている人は現在も米国やカリブ海地域の英語圏やプロテスタントの伝統や文化とつよくむすびつき、多数派の混血の人びとより教育水準が高い。そのため、自らホンジュラス社会で主体化して権利請願する動きもみられない。自他ともに認める「よそ者」として「歴史なき人びと」のままでありつづけている。

つぎに本論文の限界を説明する。本稿はホンジュラスで黒人とみなされる人びとの権利請願が分析対象であるため、現地滞在中はガリフナ組織の活動家や官僚など民族運動の関係者に焦点をあててインタビューをした。しかしながら、民族運動に関わらない人びとの観点から民族運動を検討する必要性が以前からたびたび指摘されていた。この問題を念頭に入れながらも、調査中は優先事項および時間の制約上ほとんど取りくめなかった。この論文で実証研究しつくせなかったガリフナと英語話者黒人といわれる人の比較研究とともに、今後の課題としたい。

調査企画にも限界があった。本稿で参照した分析概念のひとつに、シルビア・ウィンターの「黒人の先住民化」という、新大陸で黒人とみなされる人が先住民のように土地に根ざしていくという理解がある (Wynter 1970)。第 5 章でとりあげた視点であり、当初は筆者の口頭発表 (金澤 2012b) とガリフナのクリスマス舞踊「ジョンカヌー」の歴史を事例にしてさらに記述する予定であった。しかしながら、本論文は社会運動の事例研究であるた

め、民族舞踊の歴史に関する記述は割愛した。稿をあらためて、舞踊「ジョンカヌー」について執筆し、ディアスポラにあると考えられていた黒人とよばれる人びとが新大陸の時間と空間に根ざすプロセス、すなわち「黒人の先住民化」の過程を提示したい。

本稿はガリフナ化という人種概念の利害関係の歴史を混血思想とネオリベラル多文化主義にもとづく国民国家のわくぐみのなかで分析してきた。本稿でとりあげた混血思想とネオリベラル多文化主義の包摂と排除、およびそれぞれの排除に対する黒人といわれるガリフナの人びとの対応の違いをまとめるとつぎのようになる。

混血思想はさまざまな人種や文化の人が混血をとおして社会に統合されてきたと謳い、すべての人に機会平等をあたえることで多様な人種や文化の人びとの包摂をすすめる。しかし、混血思想が掲げるすべての人の機会平等という包摂の理念は、裏を返せば、人種や文化の違いと結びついた個別的な不平等を看過し、少数民族にとっては排除の要因となった。

第 2 章でとりあげたように、混血思想を背景にした黒人とよばれる人びとのおもな問題は政治や行政の無関心であった。混血思想がもたらす等閑視という排除にたいして、第 3 章でみたようにガリフナといわれる人びとは承認を求めた。メレンデスのインタビュー記事「社会に受けいれられるためにわたしは白人になりたかった」(*Heraldo*, 26 de abril de 2013)に示唆されているとおり、ガリフナとみなされる人は排除の要因になっていた混血思想に対して抵抗せず、迎合した。1970 年代、ガリフナとよばれる人びとは混血思想の理解に従うことで、自分たちの文化をホンジュラスの民俗文化に組みこむことに成功した。

他方、ネオリベラル多文化主義は、人種や文化の違いにもとづく差別は社会の経済的損失となるため、疎外されてきた少数民族に経済的機会をあたえることが国や地域の発展になるという考えである。第 4 章で記述したとおり、ホンジュラスでは、市場経済にアクセスできなかった少数民族が市場経済に参入するために能力開発プログラムが実施されたり、形骸化していた少数民族の権利を明確にし、かれらの権利を保障する取り組みがおこなわれた。

しかしながら、ガリフナといわれる人びとは多文化主義的な観光開発によって土地と資源と権限を奪われ、かれらの文化だけでなく、かれら自身も商品化された。ガリフナとよばれる人びとはネオリベラル多文化主義にもとづく排除にたいして、第 5 章で説明したとおり、国際法や国際機関をとおして政府に権利を請願した。

その結果、多文化主義的政策がとりいれられた 1990 年代以降、ホンジュラスで人種にもとづく暴力はふえたといえる。ウェードは述べる。人種のちがいをあいまいにする混血思想は人種にもとづく包摂と排除の境界をあいまいにし、人種とむすびつく暴力を回避する役割があった。他方、人種とむすびつく権利を明確にした多文化主義は人種にかかわる包摂と排除の境界をあきらかにし、人種にもとづく暴力をふやしている (Wade 2016: 337)。

第 2 章と第 3 章で記述したとおり、黒人とみなされるガリフナの人びとにとって混血思想の問題は看過されることであった。第 5 章で、社会運動が停滞した軍政期の 1980 年代にガリフナ組織 OFRANEH が活動を停止したことにふれたが、ガリフナといわれる人への抑圧は国際機関が多文化主義的政策をもたらす 1990 年代ほど大規模なものではなかった。多文化主義的政策導入後、ガリフナとよばれる人びとの問題は第 4 章で説明したとおり、合法・非合法的な立ち退きや関係者への弾圧となった。ガリフナといわれる人が多文化主義的政策にしたがい権利を請願すればするほど、ガリフナとよばれる人への弾圧はふえた。ガ

リフナという名称が「抵抗の人種」としてひろまったのは1990年代に多文化主義的政策が導入されはじめてからであった。一方、混血思想のもとでガリフナという名称はいわば「迎合の人種」をあらわしていた。ウェードの指摘のとおり、多文化主義的政策が取りいれられてから、ホンジュラスで人種とむすびついた暴力はあきらかにふえている。

最後に留意すべきは、混血思想とネオリベラル多文化主義の共通点である。それは、ネオリベラル多文化主義は少数民族の問題を文化や個人の問題としてあつかい、人種にもとづく問題としてとりあげないため、人種差別の構造を温存させている点である。すなわち、ネオリベラル多文化主義は多様な文化や人種の統合を謳う一方、人種差別の問題に取りくまない点で、人種差別を等閑視し、異人種間の不平等な権力関係を存続させてきた混血思想とおなじである。キムリッカはネオリベラル多文化主義を国の連帯を犠牲にしてマイノリティを包摂する「連帯のない包摂」とみなしたが、混血思想はマイノリティを犠牲にして国を連帯させる「包摂のない連帯」といえる。1990年代、国民国家統合理論は混血思想にくわえて、ネオリベラル多文化主義の様相を呈した。しかしマイノリティであるガリフナを名のる人びとにとって、「包摂のない連帯」である混血思想であろうと、「連帯のない包摂」であるネオリベラル多文化主義であろうと、異人種間の権力関係は改善していない。

ネオリベラル多文化主義を「連帯のない包摂」とみなすキムリッカは「もし多文化国家が包摂のある連帯の前提であるなら、多文化国家の前提はなにか」と問い、リベラル多文化主義 *liberal multiculturalism* というすべての人びとにおなじシティズンシップをあたえることで多様な文化が共存する多文化国家のありかたを志向している (Kymlicka 2015: 13)。キムリッカの提唱するリベラル多文化主義がホンジュラスで混血思想やネオリベラル多文化主義にかわり、多様な人種や文化を共存させ、統合させる国民国家統合理論になるだろうか？

本稿でみたホンジュラスの少数民族をめぐる政治風土をふまえると、次の2つの理由からリベラル多文化主義がホンジュラスに多様な人種や文化の共存と統合をもたらす国民国家統合理論ではないと考える。第1に、リベラル多文化主義と混血思想の構造が似ているからである。リベラル多文化主義も混血思想もすべての人びとの機会平等をうたい、さまざまな人種や文化が共存する統合をめざす。しかしながら、混血思想はすべての人びとの機会平等という名目のもと、差別を等閑視し、今日まで人種差別の構造を存続させてきた。すなわち、混血思想が標榜する機会の平等は結果の平等にむすびついてこなかった。ホンジュラスにおける混血思想の歴史をふまえると、すべての人びとの機会平等をかかげ多様な人種や文化の共存と統合をめざすリベラル多文化主義は混血思想とおなじく結果の平等をもたらすものではないといえよう。

第2に、リベラル多文化主義は個人の自由な選択にもとづく多様な人種や文化の統合をめざすため、個人主義をうながすからである。第4章で記述した、ガリフナ共同体に個人主義を浸透させるネオリベラル多文化主義と同じである。しかしながら、ホンジュラスの少数民族が求めているのは集団の権利、共同体の土地所有権であり、土地の個人所有につうじる個人主義をうながす統合理論とはあいられない。異人種間の関係は資源や権力、生活、自律や相互依存、自己や他者に対する知識、過去や未来に対する認識にかかわっており、異なる力関係のもと歴史的に形成されてきた (Wade 2010: 153)。ホンジュラスとキムリッカが考察するカナダでは少数民族や個人と集団のありかたがちがう。リベラル多文化

主義がホンジュラスで既存の異人種関係に変化をもたらす理念とはいえないだろう。

2014 年 1 月 30 日付のホンジュラス紙『エラルド』に経済危機が原因で 5 つの省がなくなることが報じられた。観光省、司法人権省、立案調整省、文化芸術スポーツ省、先住民アフリカ系子孫省である（*Heraldo*, 30 de enero de 2014）。民族組織とのパイプ役を果たしてきた政府機関であり、文化芸術スポーツ省と先住民アフリカ系子孫省の直近の大臣はガリフナとみなされる人であった。民族組織は交渉の場をうしない、これからさらにホンジュラス国内の民族運動は弱体化していくことが予想される。そのため、今後はホンジュラス黒人友愛協会のニューヨーク支部が国外から政府や国際機関に働きかけている活動に注目して、ホンジュラスで黒人といわれる人の権利請願を分析しつつけていく予定である。

ガリフナや先住民とみなされるおおくの活動家や、大臣、政府高官にまで筆者のような立場の人間が会えたのはホンジュラスや日本で研究をささえてくれた人びとのおかげである。ダリオ博士が「20 世紀のホンジュラス政治史はまだ幼い段階にある」と言うように、ガリフナ研究がおこなわれるホンジュラスという地域の研究自体、進展しておらず、研究環境も整っていない（Euraque 2009: 47）。豊かな資源が眠り、今後の発展が見こまれる地域と分野である。

2013 年 12 月 30 日、国連は「アフリカ系子孫の国際 10 年Decenio Internacional de los Afrodescendientes」を批准し、2015－2024 年までアフリカ系子孫を対象にしたさまざまなプロジェクトを企画している<sup>1</sup>。本稿が南北アメリカのアフリカ系子孫およびその研究の一助になれば幸いである。

---

<sup>1</sup> <http://www.un.org/es/events/africandescentdecade/> [2016 年 8 月 19 日閲覧]。

情報提供者リスト

139－145 項

要約につき削除

巻末資料 1900 年から 2014 年までの政治体制とおもな出来事

146－148 項

要約につき削除

## 引用文献

Adams, Richard

1956 "Cultural Components of Central America." *American Anthropologist*, 58: 881-907.

1957 *Cultural Surveys of Panama-Nicaragua-Guatemala-El Salvador- Honduras*. Washington: Pan American Sanitary Bureau, Regional Office of the World Health Organization.

Agudelo, Carlos

2011 "Los garifunas, identidades y reivindicaciones de un pueblo afrodescendiente de América Central". *Afrodescendencia: Aproximaciones contemporáneas de América Latina y el Caribe*. United Nations, pp. 59-66.

Alfaro, Olmedo

1924 *El peligro antillano en la America Central: La defensa de la raza*. Ciudad de Panamá: Imprenta Nacional.

Alegría, Alberto y Rigoberto Herrera

2009 *Estudios Sociales 3*. San Pedro Sula, Honduras: Librería Cultura, S de R. L.

Alonso de Quesada, Alba

1978 *Towards a Cultural Policy for Honduras*. Paris: Unesco.

Alvarado García, Ernesto

1938 *Los forjadores de la Honduras colonial: La conquista pacífica de Honduras, héroes y mártires*. La conquista de Honduras. Tegucigalpa, Honduras: Talleres Tipográficos Nacionales.

1958 *Legislación indigenista de Honduras*. México: Instituto Indigenista Interamericano.

Amaya, Jorge Alberto

2007 "Los negros ingleses o creoles de Honduras: Etnohistoria, racismo y discursos nacionalistas excluyentes en Honduras". *Yaxkin*, 23: 13-33.

Aminzade, Ronald

2003 "From Race to Citizenship: The Indigenization Debate in Post-Socialist Tanzania." *Studies in Comparative International Development*, 38: 43-63.

Anderson, Mark

2000 "Garifuna Kids: Blackness, Modernity, and Tradition in Honduras." Ph. D. diss., University of Texas.

2007 "When Afro Becomes (like) Indigenous: Garifuna and Afro-Indigenous Politics in Honduras." *Journal of Latin American and Caribbean Anthropology*, 12(2): 383-413.

2008 "The Complicated Career of Hugh Smyth...Anthropologist and Ambassador: The Early Years, 1940-1950." *Transforming Anthropology*, 18(2): 128-146.

2009 *Black and Indigenous: Garifuna Activism and Consumer Culture in Honduras*. Minneapolis, MN: University of Minnesota Press.

Andrews, George Reid

1994 "Afro-Latin America in the Late 1990s." *Journal of Social History*, 28 (2): 363-379.

2009 "Afro-Latin America: Five Questions." *Latin American and Caribbean Ethnic Studies*, 4(2):



- 191-210.
- Appiah, Anthony and Gates, Henry Louis, eds.  
1999 *Africana: The Encyclopedia of the African and African American Experience*. New York: Basic Civitas Books.
- Arguedas, Aaron  
2011 "El capitán de morenos Tadeo Munieza y la expulsión de los ingleses de Trujillo el 27 de abril de 1797". *Revista Historia*, 63-64: 35-49.
- Argueta, Mario  
1992 *Historia de los sin historia, 1900-1948*. Tegucigalpa, Honduras: Editorial Guaymuras.
- Arrivillaga, Alfonso  
2006 (2005) "Marcos Sánchez Díaz: From Hero to Híuraha-Two Hundred Years of Garifuna Settlement in Central America." *The Garifuna, A Nation across Borders: Essays in Social Anthropology*. Joseph Palacio O., ed. Benque Viejo del Carmen, Belize: Cubola, pp. 64-84.
- Assies, Willem  
2010 "The Limits of State Reform and Multiculturalism in Latin America: Contemporary Illustrations." *Out of the Mainstream: Water Rights, Politics and Identity*. Rutgerd Boelens, David H. Getches and Jorge Armando Guevara Gil, eds. London: Earthscan, pp. 57-73.
- Ávila, José Francisco y Tomas Alberto Ávila  
2006 *Historia de la titulación de tierras garífuna en Honduras*. Milenio Associates, LLC.
- Ávila, José Francisco, Doris Chessman and Celso Castro  
2006 *Garifuna World: Garinagu's Path to the 21st Century*. Milenio Associates, LLC.
- Badillo, Casandra  
2001 "Only My Hairdresser Knows for Sure." *NACLA*, 34(6): 35-37.
- Barahona, Marvin  
2004 "Del mestizaje a la diversidad étnica y cultural: La contribución del movimiento indígena y negro de Honduras". *Memorias del mestizaje: Cultura política en Centroamérica, 1920-1990s*. Darío A. Euraque, et al. Guatemala: CIRMA, pp. 215-251.  
2005 *Honduras en el siglo XX: Una síntesis histórica*. Tegucigalpa, Honduras: Editorial Guaymuras.  
2009 *Pueblos indígenas, Estado y memoria colectiva en Honduras*. Tegucigalpa, Honduras: Editorial Guaymuras.
- Barahona, Marvin, y Ramón Rivas, comps.  
1998 *Rompiendo el espejo: Visiones sobre los pueblos indígenas y negros en Honduras*. Tegucigalpa, Honduras: Editorial Guaymuras.
- Bardales Bueso, Rafael  
1947 *Nuestro pueblo*. Tegucigalpa, Honduras: Talleres Tipografías Nacionales.
- Baruwa Lani Indura  
2009 *Lúruđu Lideinte Baruwa (Constitución de Honduras)*. Tegucigalpa, Honduras: Graficentro Editores.
- Bastide, Roger

- 1965 "The Development of Race Relations in Brazil." *Industrialisation and Race Relations: A Symposium*. Guy Hunter, ed. New York: Oxford University Press, pp. 9-29.
- Bateman, Rebecca
- 1990 "Africans and Indians: A Comparative Study of the Black Carib and Black Seminole." *Ethnohistory*, 37: 1-24.
- Beals, Carleton
- 1932 *Banana Gold*. New York: Arno Press.
- Becerra, Longino
- 1982 *Evolución histórica de Honduras*. Tegucigalpa: BANKTUN.
- Bernal, Luis Guillermo
- 2009 *Enlances 7, Ciencias Sociales*. Honduras: Editorial Santillana.
- Blair, Emma Helen and James Robertson, eds.
- 1973 (1903) *The Philippine Islands, 1493-1898*. Vols. 42, 48. Manila: Cachos Hermanos.
- Brondo, Keri
- 2007 "Land Loss and Garifuna Women's Activism on Honduras' North Coast." *Journal of International Women's Studies*, 9(1): 99-116.
- Brondo, Keri and Laura Woods
- 2007 "Garifuna Land Rights and Ecotourism as Economic Development in Honduras' Cayos Cochinos Marine Protected Area." *Ecological and Environmental Anthropology*, 3: 2-17.
- Burnford, Angela
- 2004 "Honduras, National Geographic Announce "Geotourism" Partnership." *National Geographic Traveler*, October 25, 2004.
- Caballero, Alma
- 1979 *El baile de las tiras*. Tegucigalpa, Honduras: Secretaría de Cultura y Turismo.
- Cáceres Gómez, Rina
- 2003 "On the Frontiers of the African Diaspora in Central America: The African Origins of San Fernando de Omoa." *Trans-Atlantic Dimensions of Ethnicity in the African Diaspora*. Paul E. Lovejoy and David V. Trotman, eds. London; New York: Continuum, pp.115-137.
- 2010 "Slavery and Social Differentiation: Slave Wages in Omoa." *Blacks and Blackness in Central America: Between Race and Place*. Gudmundson, Lowell and Justin Wolfe, eds. Durham: Duke University Press, pp. 130-149.
- Calderón, Manuel Torres
- 2002 "Who Knows Honduras?" *Deciphering Honduras: Four Views of Post-Mitch Political Reality*. Manuel Torres Calderón, et al. Cambridge, Massachusetts: Hemispheric Initiatives.
- Canelas Díaz, Antonio
- 1999 *La Ceiba, sus raíces y su historia (1810-1940)*. La Ceiba, Honduras: Tipografía Renacimiento.
- Caribbean Central American Research Council (CCARC)
- s.f.a "Resumen de análisis legal, conclusiones y recomendaciones: Diagnóstico del uso y tenencia de la tierra en comunidades garífunas y miskitas de Honduras 2002-2003". Austin, Texas:

- CCARC.
- s.f.b “Tipificación, metodología y su implementación: Diagnóstico del uso y tenencia de la tierra en comunidades garífunas y miskitas de Honduras 2002-2003”. Austin, Texas: CCARC.
- s.f.c “Conclusiones, recomendaciones y medidas consecuentes: Diagnóstico del uso y tenencia de la tierra en comunidades garífunas y miskitas de Honduras 2002-2003”. Austin, Texas: CCARC.
- s.f.d “Actualización del estudio, opciones de titulación de tierras en zonas indígenas: Diagnóstico del uso y tenencia de la tierra en comunidades garífunas y miskitas de Honduras 2002-2003.” Austin, Texas: CCARC.
- Centeno García, Santos
- 1997 *Historia del movimiento negro hondureño*. La Ceiba, Honduras: José Hipólito Centeno García.
- 2008 *Genes y músclos negros en los renglones histórico-antropológicos de Honduras*. Tegucigalpa, Honduras: Universidad Nacional Autónoma de Honduras, Editorial Universitaria.
- Central Statistical Office
- 1992 “1991 Belize Family Health Survey. Final Report.” Belmopan, Belize: Central Statistical Office.
- Centro de Documentación de Honduras (CEDOH)
- 1991 “Los negros de la costa atlántica”. *Boletín Informativo*, 118: 10-12.
- Chambers, Glenn Anthony, Jr.
- 2006 “Foreign Labor and the Struggle for a Honduran Identity: West Indian Workers and Community Formation in the Republic of Honduras, 1876-1954.” Ph. D. diss., Howard University.
- 2010 *Race, Nation, and West Indian Immigration to Honduras, 1890-1940*. Baton Rouge: Louisiana State University Press.
- Chávez Borjas, Manuel
- 1988 “La cuestión étnica en Honduras.” *Estudios Sociales Centroamericanos*, 48: 49-69.
- 1990 *Identidad, cultura y nación en Honduras*. Tegucigalpa, Honduras: Ediciones Librería Paradiso.
- Chronicle Staff
- 2009 “Honduras: Second-Most Globalized.” *Latin Business Chronicle*, December 10, 2009.
- Clarke, Gerard
- 2001 “From Ethnocide to Ethnodevelopment?: Ethnic Minorities and Indigenous Peoples in Southeast Asia.” *Third World Quarterly*, 22(3): 413-436.
- Clifford, James
- 1999 (1997) *Routes: Travel and Translation in the Late Twentieth Century*. Cambridge, Mass.: Harvard University Press.
- Coelho, Ruy
- 1955 “The Black Carib of Honduras: A Study in Acculturation.” Ph. D. diss., Northwestern

- University.
- 1964 "Os Karaib, Negros de Honduras". *Revista do Museu Paulista*, 15: 7-212.
- 1995 *Los negros caribes de Honduras*. Tegucigalpa, Honduras: Editorial Guaymuras.
- 2000 *Dias em Trujillo: Um antropólogo brasileiro em Honduras*. São Paulo, SP, Brasil: Editora Perspectiva: Sociedade Científica de Estudos da Arte.
- 2002 *Os caraíbas negros de Honduras*. São Paulo, SP, Brasil: Editora Perspectiva: Sociedade Científica de Estudos da Arte.
- Comité para la Defensa de los Derechos Humanos en Honduras
- 1992 "Memoria Seminario-Taller 'Derechos Humanos de los Pueblos Indígenas y Negros.'" 13-15 de julio de 1992, Gracias, Lempira, Honduras.
- Congreso Nacional de Honduras
- 1982 *Constitución Política de 1982*. Tegucigalpa, Honduras.
- Confederación de Pueblos Autóctonos de Honduras (CONPAH)
- 1994 "Propuesta de Asamblea. De la Confederación de Pueblos Autóctonos de Honduras". Comayagüela, M.D.C., octubre de 1994.
- Consejo Asesor Hondureño para el Desarrollo de las Etnias Autóctonas (CAHDEA)
- 1988 *Pueblos Étnicos de Honduras*. Tegucigalpa, Honduras: Litografía López.
- Conzemius, Eduard
- 1928 "Ethnographical Notes on the Black Carib (Garif)." *American Anthropologist*, 30 (2): 183-205.
- 1999 "Material sobre el idioma garif (Honduras)". *Yaxkin*, 18: 80-116.
- Craft, Linda
- 1998 "Ethnicity, Oral Tradition, and the Processed Word: Construction of a National Identity in Honduras." *Revista Hispánica Moderna*, 51(1): 136-146.
- Craton, Michael
- 1995 "Decoding Pitchy - Patchy: The Roots, Branches and Essence of Junkanoo." *Slavery and Abolition*, 16(1): 14-44.
- Cruz, Ramón E.
- 1953 *Panorama de las culturas historicas, su génesis, desarrollo, decadencia y desintegración*. Tegucigalpa, Honduras: La Democracia.
- Cruz Sandoval, Fernando
- 1982 "Informe de viaje a Trujillo, 3 a 6 de diciembre de 1982". Tegucigalpa, Honduras: Archivo Etnohistórico, Instituto Hondureño de Antropología e Historia.
- 1984 "Los indios de Honduras y la situación de sus recursos." *América Indígena*, 44(3): 423-446.
- 1985 Oficio no. 27-SE, 11 de noviembre de 1985. Tegucigalpa, Honduras: Archivo Etnohistórico, Instituto Hondureño de Antropología e Historia.
- 1986 "La politización de los grupos étnicos en Honduras." Tegucigalpa, Honduras: Archivo Etnohistórico, Instituto Hondureño de Antropología e Historia.
- 1988 Oficio No.012-SE, 24 de Febrero de 1988. Tegucigalpa, Honduras: Archivo Etnohistórico, Instituto Hondureño de Antropología e Historia.

Cuesta, José

- 2007 "Political Space, Pro-Poor Growth and Poverty Reduction Strategy in Honduras: A Story of Missed Opportunities." *Journal of Latin American Studies*, 39(2007): 329-354.

Davidson, William

- 1976a "Black Carib (Garífuna) Habitats in Central America." *Frontier Adaptations in Lower Central America*. Mary Helms and Franklin Loveland, eds. Philadelphia: Institute for the Study of Human Issues, pp. 85-94.
- 1976b "The Garífuna Symposium: An Introduction." *Actes du XLII Congrès International des Américanistes*, 6: 447-449.
- 1979 (1974) *Historical Geography of the Bay Islands, Honduras: Anglo-Hispanic Conflict in the Western Caribbean*. Birmingham, Alabama: Southern University Press.
- 1980 "The Garífuna of Pearl Lagoon: Ethnohistory of an Afro-American Enclave in Nicaragua." *Ethnohistory*, 27: 31-47.

Davidson, William and Melanie Counce

- 1989 "Mapping the Distribution of Indians in Central America." *Cultural Survival*, 13(3):37-38.

Degler, Carl N.

- 1971 *Neither Black Nor White: Slavery and Race Relations in Brazil and the United States*. New York: Macmillan.

Dirección General de Estadística y Censos

- 1947 *Resumen del censo general de población levantado el 24 de junio de 1945*. Tegucigalpa, Honduras: Tipografía Nacional.

Dirección General de Estadística y Censos y Secretaría de Planificación, Coordinación y Presupuesto (SECPLAN)

- 1990 *Censo nacional de población 1988*. Tegucigalpa, Honduras: Tipografía Nacional.

Echeverri-Gent, Elisavinda

- 1992 "Forgotten Workers: British West Indians and the Early Days of the Banana Industry in Costa Rica and Honduras." *Journal of Latin American Studies*, 24 (2): 275-308.

Editorial Santillana

- 2005 *Ciencias Sociales 2*. Honduras: Editorial Santillana.
- 2009 *Ciencias Sociales 7*. Honduras: Editorial Santillana.

England, Sarah

- 1999 "Negotiating Race and Place in the Garífuna Diaspora: Identity Formation and Transnational Grassroots Politics in New York City and Honduras." *Identities*, 6(1): 5-53.
- 2000 "Creating a Global Garífuna Nation? The Transnationalization of Race, Class, and Gender Politics in the Garífuna Diaspora," Ph.D. diss., University of California at Davis.

Equipo Técnico Interinstitucional Integrado

- 1979 "Proyecto cooperación al desarrollo indígena de Yoro (Grupo Turrupan o xicaque). Diagnóstico agro-socioeconómico. Tribu Subirana." Tegucigalpa, Honduras: Instituto Hondureño de Antropología e Historia.

Eriksen, Thomas Hylland

- 2002 (1993) *Ethnicity and Nationalism*. London: Pluto Press.
- Euraque, Darío A.
- 1998 "The Banana Enclave, Nationalism and Mestizaje in Honduras, 1910's-1930's." *Identity and Struggle at the Margins of the Nation-State: The Laboring People of Central America and the Hispanic Caribbean*. Aviva Chomsky and Aldo Lauria-Santiago, eds. Durham, N.C.: Duke University Press, pp.151-168.
- 2003 "The Threat of Blackness to the Mestizo Nation: Race and Ethnicity in the Honduras Banana Economy, 1920s and 1930s." *Banana Wars: Power, Production and History in the Americas*. Steve Striffler and Mark Moberg, eds. Durham, N.C.: Duke University Press.
- 2004a *Conversaciones históricas con el mestizaje y su identidad nacional en Honduras*. San Pedro Sula, Honduras: Centro Editorial.
- 2004b "Negritud garifuna y coyunturas políticas en la costa norte hondureña, 1940-1970". *Memorias del mestizaje: Cultura política en Centroamérica, 1920-1990s*. Darío A. Eurique, et al. Guatemala: CIRMA, pp.295-323.
- 2007 "Free, Pardos and Mulattoes Vanquish Indians: Cultural Civility as Conquest and Modernity in Honduras." *Beyond Slavery: The Multilayered Legacy of Africans in Latin America and the Caribbean*. Darién Davis, ed. Lanham, MD: Rowman and Littlefield, pp. 81-105.
- 2009 *Historiografía de Honduras, 1950-2000*. Tegucigalpa, Honduras: Instituto Hondureño de Antropología e Historia.
- 2010 "The Honduran Coup and Cultural Policy." *NACLA Report on the Americas*, 43(2): 30-34.
- Euraque, Darío A., et al.
- 2004 *Memorias del mestizaje: Cultura política en Centroamérica, 1920-1990s*. Guatemala: CIRMA.
- Faúndez, Alejandra y Marcos Valdés
- 2011 "Caracterización de la población indígena y afrodescendientes de Honduras". Honduras.
- Fiehrer, Thomas
- 1979 "Slaves and Freedmen in Colonial Central America: Rediscovering a Forgotten Black Past." *The Journal of Negro History*, 64(1): 39-57.
- Flores, Andino Francisco Alberto
- 1977 "Realidad indígena hondureña". Tegucigalpa, Honduras: Archivo Etnohistórico, Instituto Hondureño de Antropología e Historia.
- Flores Díaz, Carlos Alberto y Crisanto Meléndez
- 1976 "Informe de la investigación de la cultura garifuna. I etapa, duración: 10 días. Departamento de: Cortés y Atlántida". Tegucigalpa, Honduras: Secretaría de Cultura y Turismo.
- Fondo Hondureño de Inversión Social (FHIS)
- 1996 "Inversión social para las etnias autóctonas de Honduras". Tegucigalpa, Honduras: FHIS.
- 2004 "Lineamientos estratégicos del FHIS 2004-2012". Tegucigalpa, Honduras: FHIS.
- Fontaine, Pierre-Michel, ed.
- 1985 *Race, Class, and Power in Brazil*. Los Angeles: Center for Afro-American Studies, University of California.

Forbes, Jack

1988 *Black Africans and Native Americans: Color, Race, and Caste in the Evolution of Red-Black Peoples*. Oxford, UK; New York, USA: Blackwell.

French, Jan Hoffman

2004 "Mestizaje and Law-making in Indigenous Identity Formation in Northeastern Brazil: "After the Conflict Came History."" *American Anthropologist*, 106(4): 663-674.

Friedemann, Nina S. De

1992 "Negros en Colombia: Identidad e invisibilidad". *América Negra*, 3: 25-35.

Galindo, Juan

1833 "Notice of the Caribs in Central America." *Journal of the Royal Geographical Society of London*, 3: 290-291.

Gall, Olivia, coord.

2007 *Racismo, mestizaje y modernidad: Visiones desde latitudes diversas*. México, D.F.: Universidad Nacional Autónoma de México.

Gargallo, Francesca

1999 "El pueblo Garífuna: Caribes y cimarrones hoy". *Cuadernos Americanos*, 76: 109-149.

Ghidinelli, Azzo

1984 "Los grupos humanos que se originaron después de la Conquista en la Costa Atlántica de Guatemala y Honduras." En Memoria del Seminario de la Costa Atlántica de Centroamérica. CSUCA: San Jose C.R.

Gómez Osorio, Justo

1905 "La Mosquitia, índole y costumbres de sus pobladores". *Revista del Archivo y Biblioteca Nacionales de Honduras*, 1(10): 279-287.

Gonzalez, Nancie (アクセントなしママ)

1958 "The Consaguineal Household among the Black Carib of Central America." Ph. D. diss., University of Michigan.

1970 "The Neoteric Society." *Comparative Studies in Society and History*, 12: 1-13.

1988 *Sojourners of the Caribbean: Ethnogenesis and Ethnohistory of the Garífuna*. Urbana: University of Illinois Press.

1992 "Garífuna Settlement in New York: A New Frontier." *Caribbean Life in New York City: Sociocultural Dimensions*. Constance R. Sutton and Elsa M. Chaney, eds. New York: Center for Migration Studies, pp. 138-146.

1995 *Historia del pueblo Garífuna: Pasado y presente*. Tegucigalpa, Honduras: ASEPADE; IHAH; COSUDE.

2008 *Peregrinos del Caribe, etnogénesis y etnohistoria de los garifunas*. Tegucigalpa, Honduras: Editorial Guaymuras.

Godreau, Isar P., et al.

2008 "The Lessons of Slavery: Discourses of Slavery, Mestizaje, and Blanqueamiento in an Elementary School in Puerto Rico." *American Ethnologist*, 35(1): 115-135.

Gordon, Edmund, Galio Gudián and Charles Hale

- 2003 "Rights, Resources, and the Social Memory of Struggle: Reflections on a Study of Indigenous and Black Community Land Rights on Nicaragua's Atlantic Coast." *Human Organization*, 62(4): 369-381.
- Graham, Ross
- 2000 "The Bay Islands English: Stages in the Evolution of a Cultural Identity." *English-speaking Communities in Latin America*. Oliver Marshall, ed. Basingstoke: Macmillan Press, pp.287-313.
- Green, Celestino
- 2011 *Origen africano de la humanidad y los garífunas precolombianos*. Tegucigalpa, Honduras: Editorial Guaymuras.
- Griffin, Wendy
- 2002 *Los garífunas, su cultura y el convenio 169 de la OIT*. s.l.
- Guenther, Mathias
- 2006 "The Concept of Indigeneity." *Social Anthropology*, 14: 17-32.
- Gustafson, Bret
- 2002 "The Paradoxes of Liberal Indigenism: Indigenous Movements, State Processes and Intercultural Reform in Bolivia." D. Maybury-Lewis, ed. *The Politics of Ethnicity: Indigenous Peoples in Latin American States*. Cambridge: Harvard University Press, pp. 267-306.
- Hale, Charles
- 2005 "Neoliberal Multiculturalism: The Remaking of Cultural Rights and Racial Dominance in Central America." *Political and Legal Anthropology Review*, 28(1): 10-28.
- 2011 "Resistencia para que? Territory, Autonomy and Neoliberal Entanglements in the 'Empty Spaces' of Central America." *Economy and Society*, 40(2): 184-210.
- Harris, Marvin, Consorte, Josildeth Gomes, Lang, Joseph and Byrne, Bryan
- 1993 "Who are the Whites?: Imposed Census Categories and the Racial Demography in Brazil." *Social Forces*, 72 (2): 451-462.
- Harris, Wilson
- 1985 "Palace of the Peacock." *The Guyana Quartet*. London; Boston: Faber and Faber, pp. 15-117.
- Harvey, David
- 2007 "Neoliberalism as Creative Destruction." *The Annals of the American Academy of Political and Social Science*, 610: 21-44.
- Hasemann, George, Gloria Lara Pinto y Fernando Cruz Sandoval
- 1996 *Los indios de Centroamérica*. Madrid: Mapfre.
- Helms, Mary
- 1976 "Domestic Organization in Eastern Central America: The San Blas Cuna, Miskito, and Black Carib Compared." *Western Canadian Journal of Anthropology*, 6: 133-163.
- 1981 "Black Carib Domestic Organization in Historical Perspective: Traditional Origins of Contemporary Patterns." *Ethnology*, 20: 77-86.



- 1990 "Book Review. Sojourners of the Caribbean: Ethnogenesis and Ethnohistory of the Garifuna. By Nancie Solien Gonzalez." *Ethnohistory*, 37: 197.
- Herranz, Atanasio
- 2000 (1996) *Estado, sociedad y lenguaje: La política lingüística en Honduras*. Tegucigalpa, Honduras: Editorial Guaymuras.
- Herskovits, Melville
- 1990 (1941) *The Myth of the Negro Past*. Boston: Beacon Press.
- Hill, Robert, ed.
- 1985 *The Marcus Garvey and Universal Negro Improvement Association Papers*. Vol. 4. Berkeley, California: University of California Press.
- Hobsbawm, Eric
- 1990 "Escaped Slaves of the Forest." *New York Review of Books*, 6: 46.
- Holm, John A. ed.
- 1983 *Central American English*. Heidelberg: J. Groos,
- Holmqvist, Göran and Karin Metell Cueva
- 2006 "If the PRS Experience in Latin America is a Disappointment, What is the Alternative?" *Development Policy Review*, 24(2006): 477-480.
- Hooker, Juliet
- 2005 "Indigenous Inclusion/Black Exclusion: Race, Ethnicity and Multicultural Citizenship in Latin America." *Journal of Latin American Studies*, 37(2): 285-310.
- Instituto Hondureño de Antropología e Historia (IHAA), Confederación de Pueblos Autóctonos de Honduras (CONPAH) y Programa de las Naciones Unidas para el Desarrollo (PNUD)
- 1993 *Apuntes sobre los pueblos autóctonos de Honduras*. Tegucigalpa, Honduras.
- Instituto Hondureño de Turismo (IHT)
- 2007 "Boletín estadístico: La importancia del turismo en la economía nacional 2000-2006". Tegucigalpa, Honduras: IHT.
- 2008 "Boletín estadístico de turismo 2003-2007". Tegucigalpa, Honduras: IHT.
- Instituto Nacional Agrario (INA)
- 2005 "Tierra Mia: Un homenaje a los pueblos indígenas y afrohondureños." *Boletín Informativo*, 13(3).
- Instituto Nacional de Estadística (INE)
- 2001 *Características generales de los Garífunas conforme a los resultados del XVI censo de población y V de vivienda, año 2001*. Tegucigalpa, Honduras: INE.
- Instituto Nacional de la Mujer
- s.f. *Ley de Igualdad de Oportunidades para la Mujer en Garífuna (Lúrudu Iánina Iúaradagun Budan tun hiñaru)*. Tegucigalpa, Honduras.
- Inter-American Commission on Human Rights (IACHR)
- 2007 "Garifuna Community of Cayos Cochinos and its Members, Honduras. Report N° 39/07. Petition 1118-03." Washington, D.C.: Inter-American Commission on Human Rights.
- Inter-American Dialogue

- 2004 "Constitutional Provisions and Legal Actions Related to Discrimination and Afro-Descendant Populations in Latin America." *Race Report*, August, 2004.
- International Labour Organization (ILO)
- 2009 "Indigenous and Tribal Peoples' Rights in Practice: A Guide to ILO Convention No. 169." International Labour Standards Department.
- Ishibashi, Jun
- 2003 "Hacia una apertura del debate sobre el racismo en Venezuela: exclusion e inclusion estereotipada de personas 'negras' en los medios de comunicacion". *Políticas de identidades y diferencias sociales en tiempos de globalización*. Daniel Mato, coord. Caracas: FACES - UCV, pp: 33 - 61.
- Jackson, Jean and Kay Warren
- 2005 "Indigenous Movements in Latin America, 1992-2004: Controversies, Ironies, New Directions." *Annual Review of Anthropology*, 34(2005): 549-573.
- James, Cynthia
- 2002 *Maroon Narrative: Caribbean Literature in English across Boundaries, Ethnicities and Centuries*. Portsmouth, NH: Heinemann.
- Jefremovas, Villia and Padmapani L. Perez
- 2011 "Defining Indigeneity: Representation and the Indigenous Peoples' Rights Act of 1997 in the Philippines." *Identity Politics in the Public Realm: Bringing Institutions Back in*. Avigail Eisenberg and Will Kymlicka, eds. Vancouver: UBC press, pp. 79-103.
- Jones, David and Carlyle Glean
- 1971 "The English-speaking Communities of Honduras and Nicaragua." *Caribbean Quarterly*, 17: 50-61.
- Jones, Jeffrey R.
- 1990 *Colonization and Environment: Land Settlement Projects in Central America*. Tokyo, Japan: United Nations University Press.
- Joyce, Rosemary A.
- 2008 "Critical Histories of Archaeological Practice: Latin American and North American Interpretations in a Honduran Context." *Evaluating Multiple Narratives: Beyond Nationalist, Colonialist, Imperialist Archaeologies*. Junko Habu, Clare Fawcett, John M. Matsunaga, eds. New York: Springer, pp. 56-68.
- Kaltwasser, Cristobal Rovira
- 2011 "Toward Post-Neoliberalism in Latin America." *Latin American Research Review*, 46(2): 225-234.
- Kay, Cristóbal
- 2002 "Agrarian Reform and the Neoliberal Counter-Reform in Latin America." *The Spaces of Neoliberalism: Land, Place and Family in Latin America*. Jacquelyn Chase, ed. Bloomfield, CT: Kumarian Press, pp. 25-52.
- Keenagh, Peter
- 1938 *Mosquito Coast: An Account of a Journey through the Jungles of Honduras*. New York:

- Houghton Mifflin Company.
- Kenrick, Justin and Jerome Lewis  
 2004 "Indigenous Peoples' Rights and the Politics of the Term 'Indigenous'." *Anthropology Today*, 20(2): 4-9.
- Kerns, Virginia  
 1997 (1983) *Women and the Ancestors: Black Carib Kinship and Ritual*. Urbana: University of Illinois Press.  
 1991 Book Review. "(Gonzalez) *Sojourners of the Caribbean: Ethnogenesis and Ethnohistory of the Garifuna*." *Anthropological Quarterly*, 64(4): 209.
- Klein, Naomi  
 2005 "The Rise of Disaster Capitalism." *The Nation*, April 14, 2005.
- Komisaruk, Catherine  
 2010 "Becoming Free, Becoming Ladino: Slave Emancipation and Mestizaje in Colonial Guatemala." *Blacks and Blackness in Central America: Between Race and Place*. Lowell Gudmundson and Justin Wolfe, eds. Durham: Duke University Press, pp. 150-174.
- Kymlicka, Will  
 2013 "Neoliberal Multiculturalism?" *Social Resilience in the Neoliberal Era*. Peter A. Hall and Michèle Lamont, eds. Cambridge: Cambridge University Press, pp. 99-128.  
 2015 "Solidarity in Diverse Societies: Beyond Neoliberal Multiculturalism and Welfare Chauvinism." *Comparative Migration Studies*, 3(17): 1-19.
- Lacayo Sambulá, Gloria Marina  
 2011 *Desafiando la ignorancia: Biografía del Doctor Alfonso Lacayo Sánchez Primer Médico Garífuna de Honduras*. Bloomington, Indiana: Palibrio.
- Lang, Julio  
 1951 "Espectro racial de Honduras". *América Indígena*, 11(3): 209-217.
- Langley, Lester D. and Thomas Schoonover  
 1995 *Banana Men: American Mercenaries and Entrepreneurs in Central America, 1880-1930*. Lexington, Kentucky: University Press of Kentucky.
- Lara Pinto, Gloria  
 2006 "Cultura, medio ambiente y desarrollo: Del grupo étnico a la formación de la identidad nacional". *Revista Académica de Derechos Humanos*, 1(1): 41-60.
- Leiva Vivas, Rafael  
 1982 *Tráfico de esclavos negros a Honduras*. Tegucigalpa, Honduras: Editorial Guaymuras.  
 1993 "El indigenismo en la literatura hondureña". *Paraninfo*, 2(4): 139-152.
- León Gómez, Alfredo  
 1988 *Perfiles de Honduras (1973-1979)*. Comayagüela, Honduras: Imprenta Soto.
- Little, Walter E.  
 2007 "Memorias del mestizaje: Cultura política en Centroamérica de 1920 al presente." *Hispanic American Historical Review*, 87: 209-210.
- López García, Víctor Virgilio

- 1991 *Lamumehan Garífuna: Clamor Garífuna*. Tornabe, Tela, Atlántida, Honduras: V.V.
- Lunardi, Federico
1946. *Honduras maya*. San Pedro Sula, Honduras: Compañía Editora de Honduras.
- Lutz, Christopher
- 2004 "Introduction to the Original Panel on Migration and Marginalization: Central America and the African Diaspora." *Transforming Anthropology*, 12: 3-8.
- MacKay, Fergus
- 2002 "The Rights of Maroons in International Human Rights Law." *Cultural Survival Quarterly*, 25 (4).
- MacNeill, Tim
- 2015 "Development as Imperialism: Power and the Perpetuation of Poverty in Afro-Indigenous Communities of Coastal Honduras." *Human and Society*, September: 1-31.
- Magnarella, Paul
- 2005 "Protecting Indigenous People." *Human Rights and Human Welfare*, 5: 125-135.
- Mainwaring, Scott
- 2008 "Political Regimes in Latin America, 1900-2007 (with Daniel Brinks)." December 20, 2008. [http://kellogg.nd.edu/scottmainwaring/Political\\_Regimes.pdf](http://kellogg.nd.edu/scottmainwaring/Political_Regimes.pdf) [2015 年 12 月 3 日閲覧] .
- Mainwaring, Scott and Aníbal Pérez-Liñán
- 2013 *Democracies and Dictatorships in Latin America: Emergence, Survival, and Fall*. New York: Cambridge University Press.
- Manzanares, Rafael
- 1960 Por las sendas del folklore. Tegucigalpa, Honduras: Imprenta Calderón.
- Martin, Robert Montgomery
- 1836 *History of the West Indies: Comprising Jamaica, Honduras, Trinidad, Tobago, Grenada, the Bahamas and the Virgin Isles*. London: Whittaker & Co.
- Martínez, José Z.
- 1949 "Descripción de la Ciudad Puerto de La Ceiba." *Revista del Archivo y Biblioteca Nacionales de Honduras*, 27(7-8): 319-323.
- Martínez Castillo, Mario Felipe
- 2004 *El paternalismo y la Esclavitud Negra en el Minas de Tegucigalpa*. Tegucigalpa, Honduras: Litografía López.
- Martínez Montiel, Luz María, coordinadora.
- 1997 (1995) *Presencia africana en México*. México, D.F.: Consejo Nacional para la Cultura y las Artes.
- Martínez Novo, Carmen
- 2012 "Why Are Indigenous Organizations Declining in Latin America?" *A Companion to Organizational Anthropology*. D. Douglas Caulkins and Ann T. Jordan, eds. Malden, Mass.: Wiley-Blackwell, pp.471-492.
- Martínez Peláez, Severo
- 1979 (1970) *Patria del criollo: Ensayo de interpretación de la realidad colonial guatemalteca*.

- Guatemala, Guatemala: Editorial Universitaria.
- Mejia, Medardo  
 1989 *Historia de Honduras*. Tegucigalpa, Honduras: Editorial Universitaria.
- Meléndez, Crisanto (Uayujuru Savaranga)  
 1997 *Adeija sisira gererun aguburigu garinagu. El enojo de las sonajas: Palabras del ancestro*. Tegucigalpa, Honduras: Graficentro Editores.
- Minority Rights Group, ed.  
 1995 *No Longer Invisible: Afro-Latin Americans Today*. London: Minority Rights Group.
- Mörner, Magnus  
 1970 "Historical Research on Race Relations in Latin America During the National Period." *Race and Class in Latin America*. Magnus Morner, ed. New York: Columbia University Press, pp.199-230.
- Mudimbe, V.Y.  
 1994 *The Idea of Africa*. Bloomington, Indiana: Indiana University Press.
- Municipio de La Ceiba  
 2005 "Plan estratégico de desarrollo municipal". Secretaría de Gobernación y Justicia: Atlántida, Honduras.
- Municipio de Tela  
 2003 "Plan estratégico de desarrollo municipal". Secretaría de Gobernación y Justicia: Atlántida, Honduras.
- Muñoz Tabora, Jesús  
 1984a *El Folklore en Honduras*. Tegucigalpa, Honduras: Secretaría de Cultura y Turismo.  
 1984b *Folklore y educación, Honduras*. Tegucigalpa, Honduras: Talleres de Lithopress Industrial.  
 s.f. "Política Cultural del Departamento de Folklore Nacional. 'I Congreso Nacional de Folklore'". Tegucigalpa, Honduras: Secretaría de Cultura y Turismo. Dirección General de Cultura.
- Museo para la identidad nacional  
 2007 *Coloquio políticas culturales e identidad nacional*. Tegucigalpa, Honduras: Museo para la Identidad Nacional.
- Ng'weno, Bettina  
 2007 "Can Ethnicity Replace Race? Afro-Colombians, Indigeneity and the Colombian Multicultural State." *Journal of Latin American and Caribbean Anthropology*, 12(2): 414-440.
- Niezen, Ronald  
 2003 *The Origins of Indigenism: Human Rights and the Politics of Identity*. Berkeley: University of California Press.
- Núñez, Chinchilla Jesús  
 1960 *El panorama indigenista de la República de Honduras, Centro América*. Tegucigalpa, Honduras: Instituto Nacional de Antropología e Historia.
- Organización de Desarrollo Étnico Comunitario (ODECO)

- 2002a *La Comunidad Garífuna y sus desafíos en el siglo XXI*. La Ceiba, Atlántida, Honduras: ODECO.
- 2002b “Problemática tierra comunidades Garífunas: Paso a paso.”  
[http://www.garinet.com/cgi-bin/gksitecontent\\_ssi\\_spanish.cgi?ACTION=VIEW\\_ONE\\_CONTENT&ITEM=19&CATEGORY=155&CONTENT\\_ID=25&COLOR1=CCCC99&COLOR2=FFFFCC](http://www.garinet.com/cgi-bin/gksitecontent_ssi_spanish.cgi?ACTION=VIEW_ONE_CONTENT&ITEM=19&CATEGORY=155&CONTENT_ID=25&COLOR1=CCCC99&COLOR2=FFFFCC) [2008 年 6 月 6 日 閱覽] .
- 2012 “Declaración de La Ceiba. Primera Cumbre Mundial de los y las Afrodescendientes”. La Ceiba, Honduras: ODECO.
- Organización Fraternal Negra Hondureña (OFRANEH)
- 1993 *Estatutos de OFRANEH*. La Ceiba, Honduras: Tipografía Renacimiento.
- 2005a “Declaración de Unidad de los Pueblos Indígenas y Negros de Honduras”. La Ceiba, Honduras.
- 2005b “Persecution of Garifunas.”  
<http://www.seinebight.com/ofraneh.htm> [2007 年 11 月 3 日 閱覽] .
- n.d. “Request for Inspection.” <http://siteresources.worldbank.org/EXTINSPECTIONPANEL/Resources/RequestforInspectionHonduras-English.pdf> [2007 年 11 月 3 日 閱覽] .
- Palacio, Joseph O.
- 2008 “How did the Garifuna Become Indigenous People?: Reconstructing the Cultural Persona of an African-Native American People in Central America”. *Revista Pueblos y Fronteras Digital*, 4: 1-27.
- Palacio, Joseph O., ed.
- 2006 (2005) *The Garifuna, A Nation across Borders: Essays in Social Anthropology*. Benque Viejo del Carmen, Belize: Cubola.
- Parsons, James
- 1954 “English Speaking Settlements of the Western Caribbean.” *Yearbook of the Association Pacific Coast Geographers*, 16: 3-16.
- Pascale, Pablo
- 2010 *Actualidad afrodescendiente en Iberoamérica: Estudio sobre organizaciones civiles y políticas de acción afirmativa*. Madrid: UNDP y Secretaría General Iberoamericana.
- Pastor Fasquelle, Rodolfo
- 2002 “Quién engendró a la Patria?” *Paraninfo*, 11: 299-321.
- 2008 “La raíz del racismo ayer y hoy”. *Yaxkin*, 24(1): 145-147.
- Payne Iglesias, Elizet
- 2007 *El puerto de Truxillo: Un viaje hacia su melancólico abandono*. Tegucigalpa, Honduras: Editorial Guaymuras.
- Posas, Mario
- 1981 “El problema negro: Racismo y explotación en las bananeras”. *Alcaraván*, 9: 6-9.
- Putnam, Lara
- 2010 “Eventually Alien: The Multigenerational Saga of British West Indians in Central America, 1870-1940.” *Blacks and Blackness in Central America: Between Race and Place*.

- Gudmundson, Lowell and Justin Wolfe, eds. Durham: Duke University Press, pp. 278-306.
- Rahier, Jean Muteba
- 2008 "Soccer and the (Tri-)Color of the Ecuadorian Nation: Visual and Ideological (Dis-)continuities of Black Otherness from Monocultural Mestizaje to Multiculturalism." *Visual Anthropology Review*, 24(2): 148-182.
- 2012 "Black Social Movements in Latin America: From Monocultural Mestizaje and "Invisibility" to Multiculturalism and State Corporatism/Co-optation." *Black Social Movements in Latin America: From Monocultural Mestizaje to Multiculturalism*. Jean Muteba Rahier, ed. New York: Palgrave Macmillan, pp.1-12.
- Ramos, Víctor Manuel, coordinador.
- 2013 *Diccionario de las lenguas de Honduras*. Tegucigalpa, Honduras: Academia Hondureña de la Lengua.
- Reed, Peter
- 2007 "'There was no Resisting John Canoe': Circum-Atlantic Transnational Performance." *Theatre History Studies*, 27: 65-85.
- Renshaw, Jonathan
- 2001 "Social Investment Funds and Indigenous Peoples." Washington, D.C.: Inter-American Development Bank.
- República de Honduras
- 2004 "Marco de políticas sobre comunidades étnicas. Proyecto de Infraestructura Rural (PIR)". s.l.
- Rivas, Ramón
- 2000 (1993) *Pueblos indígenas y garífuna de Honduras: Una caracterización*. Tegucigalpa, Honduras: Editorial Guaymuras.
- Rivera y Morillo, Humberto
- 1974 *Diccionario español-garifuna*. San Pedro Sula, Honduras: CURN, Imprenta Suyapa.
- Robinson, Cynthia L.
- 2011 "Hair as Race: Why "Good Hair" May be Bad for Black Females." *The Howard Journal of Communication*, 22: 358-376.
- Robleda Castro, Agapito
- 2008 (1995) *La verdad de la huelga de 1954 y de la formación del SITRATERCO: 54 años después*. San Pedro Sula, Honduras: Impresora Litográfica San Felipe de Jesús S. de R.L.
- Roessingh, Carel
- 2001 *The Belizean Garifuna: Organization of Identity in an Ethnic Community in Central America*. Amsterdam: Rozenberg Publishers.
- Sader, Emir
- 2009 "Postneoliberalism in Latin America." *Development Dialogue*, 51: 171-179.
- Safa, Helen
- 2005 "Challenging Mestizaje: A Gender Perspective on Indigenous and Afrodescendant Movements in Latin America." *Critique of Anthropology*, 25(3): 307-330.

Scott, David

1991 "That Event, This Memory: Notes on the Anthropology of African Diaspora in the New World." *Diaspora*, 1 (3): 261-284.

Secretaría de Planificación, Coordinación y Presupuesto (SECPLAN)

1987 "Memoria del primer seminario-taller con los grupos étnicos autóctonos de Honduras". 23 y 24 de julio de 1987. Comayagua, Honduras.

SECTIN

1976 "Minorías étnicas". *Sectante*, 1(4): 28-31.

Seelke, Clare Ribando

2008 "Afro-Latinos in Latin America and Considerations for U.S. Policy (RL32713)." Washington, D.C.: Congressional Research Service.

Sieder, Rachel

2005 "Challenging Citizenship, Neo-liberalism and Democracy: Indigenous Movements and the State in Latin America." *Social Movement Studies*, 4(3): 301-307.

Skidmore, Thomas E.

1992 "Fact and Myth: Discovering a Racial Problem in Brazil." Notre Dame, IN: Helen Kellogg Institute for International Studies, University of Notre Dame.

Soluri, John

2001 "A la sombra del bananal: Poquiteros y transformaciones ecológicas en la Costa Norte de Honduras, 1870–1950". *Mesoamérica*, 42: 39-74.

Squier, Ephraim

1855 *Waikna: Adventures on the Mosquito Shore*. New York: Harper & Brothers.

1858 *The States of Central America: Their Geography, Topography, Climate, Population, Resources, Productions, Commerce, Political Organization, Aborigines, etc.* New York: Harper & Brothers.

Stephens, Thomas M.

1999 (1989) *Dictionary of Latin American Racial and Ethnic Terminology*. Gainesville, Florida: University of Florida Press.

Stokes, William

1950 *Honduras: An Area Study in Government*. Madison: University of Wisconsin Press.

Stonich, Susan

2008 "International Tourism and Disaster Capitalism: The Case of Hurricane Mitch in Honduras." *Capitalizing on Catastrophe: Neoliberal Strategies in Disaster Reconstruction*. Nandini Gunewardena and Mark Schuller, eds. Lanham, Md.: Alta Mira Press, pp. 47-68.

Stutzman, Ronald

1981 "El Mestizaje: An All-Inclusive Ideology of Exclusion." *Cultural Transformations and Ethnicity in Modern Ecuador*. Norman E. Whitten, Jr. ed. Urbana: University of Illinois Press, pp. 45-94.

Suazo, Omar

1998 "CS in the CLASSROOM." *Cultural Survival*, 22(1).



Suazo, Salvador

2001 *De caribe a garífuna: Un estudio comparativo de la lengua caribe del siglo XVII y del garífuna actual*. Paris : A.E.A.

2002 (1991) *Conversemos en Garífuna: Gramática y manual de conversación*. Tegucigalpa, Honduras: Editorial Guaymuras.

2011 *Lila Garífuna: Diccionario Garífuna-Garífuna-Español*. Tegucigalpa, Honduras: Litografía López.

s.f. De Saint Vincent a Roatán: Un resumen etnohistórico garífuna = [Yurúmaingien dagá Rubadan: Murusun lídangien lúragate garífuna yurúmaina labürühan]. Tegucigalpa, Honduras: CEDEC; [Netherlands]: Samenwerking Vastenaktie.

Suazo, Salvador, Ventura Arzú, Isidro Sabio González y José González

2008 "Catarino Castro Serrano: Primer intelectual garífuna hondureño: Apuntes biográficos". *Yaxkin*, 24(1): 109-111.

Tayac, Gabrielle, ed.

2009 *Indivisible: African-Native American Lives in the Americas*. Washington, D.C.: Smithsonian Institution's National Museum of the American Indian in association with the National Museum of African American History and Culture and the Smithsonian Institution Traveling Exhibition Service.

Taylor, Douglas

1951 *Black Carib of British Honduras*. New York: Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research.

Telles, Edward

2007 "Race and Ethnicity and Latin America's United Nations Millenium Development Goals." *Latin American and Caribbean Ethnic Studies*, 2: 185-200.

Telles, Edward and René Flores

2013 "Not Just Color: Whiteness, Nation, and Status in Latin America." *Hispanic American Historical Review*, 93(3): 411-449.

Thorne, Eva T.

2004a "Land Rights and Garífuna Identity." *NACLA*, 38(2): 21-25.

2004b "Multilateral Development Banks and the Challenge of Reform." *Global Environmental Politics*, 4(3): 160-167.

Tompson, Doug

2012 "Between Slavery and Freedom on the Atlantic Coast of Honduras." *Slavery and Abolition*, 33(3): 403-416.

Toplin, Robert Brent

1981 *Freedom and Prejudice: The Legacy of Slavery in the United States and Brazil*. Westport, Conn.: Greenwood Press.

Tosco, Manuel y Rubén Mondragón en colaboracion con Rogelio Martinez A.

1958 *Aspectos demográficos y económico-sociales de la población de Honduras*. Tegucigalpa, Honduras: Banco Central de Honduras.

Traa-Valarezo, Ximena, and Jorge Rodríguez

- 2003 "Empowering Autochthonous Peoples in Honduras with Knowledge and Mechanisms for Social Auditing: The Nuestras Raíces (Our Roots) Program." *Thinking Out Loud IV*. Mónica Peñuela, Patti Petesch and Kristin Rusch, eds. Washington, D.C.: World Bank, pp. 51-63.

UNESCO

- 1988 *Primer Congreso de la Cultura Negra de las Américas. Cali, Colombia 24-28 de agosto de 1977*. Bogotá, Colombia: UNESCO; Fundación Colombiana de Investigaciones Folclóricas.
- 2001 The Garifuna Language, Dance and Music—Belize, Supported by Honduras and Nicaragua. UNESCO Proclamation of Masterpieces of the Oral and Intangible Heritage of Humanity.

United Nations

- 2002 "Informe del Seminario regional sobre los afrodescendientes en las Américas". La Ceiba, Honduras, 21 a 24 de marzo de 2002.
- 2004 "The Concept of Indigenous Peoples." Paper presented at the Workshop on Data Collection and Disaggregation for Indigenous Peoples, January 19-21, 2004, New York.

Valencia Chala, Santiago

- 1986 *El negro en Centroamérica: Panamá, Costa Rica, Nicaragua, Honduras, Guatemala, Belice*. Quito, Ecuador: Centro Cultural Afro-Ecuatoriano: Ed.-Abya-Yala.

Valladares, Abel Arturo

- 1937 "Monografía de las Islas de la Bahía". *Revista del Archivo y Biblioteca Nacionales de Honduras*, 15: 637-644.

Vallejo, Antonio

- 1997 (1893) *Primer anuario estadístico correspondiente al año de 1889*. Tegucigalpa, Honduras: Universidad Nacional Autónoma de Honduras, Editorial Universitaria.

Van Cott, Donna Lee

- 2005 "Building Inclusive Democracies: Indigenous Peoples and Ethnic Minorities in Latin America." *Democratization*, 12(5): 820-837.
- 2006 "Multiculturalism versus neoliberalism in Latin America." *Multiculturalism and the Welfare State: Recognition and Redistribution in Contemporary Democracies*. Keith Banting and Will Kymlicka, eds. Oxford; New York: Oxford University Press, pp. 272-296.

Van Treek, Esteban Valenzuela y María José Vides Iglesias

- 2015 "El rezago de la política indígena hondureña en comparación a Guatemala y Nicaragua: Cooptación versus Empoderamiento". *Revista Búsquedas Políticas*, 4(1): 67-111.

Velásquez, Melida

- 2001 "El comercio de esclavos en la Alcaldía Mayor de Tegucigalpa, siglos XVI al XVIII". *Mesoamérica*, 42: 199-222.

Villanueva, Eduardo

- 1998 "Honduras ¿existe pluralismo jurídico? el caso Pech, Tawahka y Garífuna". *América Indígena*, 58: 401-407.

Wade, Peter

- 1993 *Blackness and Race Mixture: The Dynamics of Racial Identity in Colombia*. Baltimore:

- Johns Hopkins University Press
- 2006 "Afro-Latin Studies-Reflections on the Field." *Latin American and Caribbean Ethnic Studies*, 1(1): 105–124.
- 2010 (1997) *Race and Ethnicity in Latin America*. London ; Chicago, Ill.: Pluto Press.
- 2016 "Mestizaje, Multiculturalism, Liberalism, and Violence." *Latin American and Caribbean Ethnic Studies*, 11(3): 323-343.
- Wade, Robert
- 1997 "Greening the Bank: The Struggle over the Environment 1970-1995." *The World Bank: Its First Half Century*. Devesh Kapur, John P. Lewis and Richard Webb, eds. Washington, D.C.: Brookings Institution Press, pp. 611-734.
- Wagley, Charles, ed.
- 1952 *Race and Class in Rural Brazil*. Paris: Unesco.
- Wells, William
- 1960 (1857) *Explorations and Adventures in Honduras*. New York: Harper & Brothers.
- Whitten, Norman E., Jr.
- 2003 "Symbolic Inversion, the Topology of El Mestizaje, and the Spaces of Las Razas in Ecuador." *Journal of Latin American Anthropology*, 8(1): 52-85.
- Whitten, Norman E., Jr. and Arlene Torres
- 1998 "To Forge the Future in the Fires of the Past: An Interpretive Essay on Racism, Domination, Resistance and the Liberation." *Blackness in Latin America and the Caribbean: Social Dynamics and Cultural Transformations*. Norman E. Whitten, Jr. and Arlene Torres, eds. Bloomington: Indiana University Press, pp.3-33.
- World Bank
- 2000 "Sustainable Coastal Tourism Project." Washington, D.C.: World Bank.
- 2001 "El desafío de la inclusión en la región de América Latina y el Caribe". *La Ventana*, 1.
- 2003a "Plan de Desarrollo Indígena: Administración de tierras". Washington, D.C.: World Bank.
- 2003b "Aplicación de la directriz operacional 4.20 sobre poblaciones indígenas: Examen documental independiente". Washington, D.C.: World Bank.
- 2004a "Project Appraisal Document, Honduras, Nuestras Raíces Project." Washington, D.C.: World Bank.
- 2004b "Project Information Document, Honduras, Nuestras Raíces Project." Washington, D.C.: World Bank.
- 2006a "Sustainable Coastal Tourism Project." Washington, D.C.: World Bank.
- 2006b "Bank Management Response to Request for Inspection Panel Review of the Honduras Land Administration Project (Credit No.3858-HO)." Washington, D.C.: World Bank.
- 2007 "The Inspection Panel. Informe de Investigación. Honduras: Programa de Administración de Tierras de Honduras (Crédito de la AIF 3858-HO). Informe N° 39933-HN." Washington, D.C.: World Bank.
- 2010a "The U.S.-Honduras Remittance Corridor: Acting Opportunities to Increase Financial Inclusion and Foster Development of a Transnational Economy." Washington, D.C.: World

- Bank.
- 2010b “Restructuring Paper on a Proposed Project Restructuring of Nuestras Raíces Project Approved on May 4, 2004 in the Amount of SDR 10.1 Million (U.S \$15.0 Million Equivalent) to the Republic of Honduras.” Washington, D.C.: World Bank.
- Wright, Pamela
- 1990 “Book Review. Sojourners of the Caribbean: Ethnogenesis and Ethnohistory of the Garifuna. By Nancie Solien González.” *International Migration Review*, 24: 398.
- Wynter, Sylvia
- 1970 “Jonkonnu in Jamaica.” *Jamaica Journal*, 4(2): 34-48.
- Yashar, Deborah
- 2005 *Contesting Citizenship in Latin America: The Rise of Indigenous Movements and the Postliberal Challenge*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Yelvington, Kevin
- 2006 “The Invention of Africa in Latin America and the Caribbean: Political Discourse and Anthropological Praxis, 1920-1940.” *Afro-Atlantic Dialogues: Anthropology in the Diaspora*. Kevin Yelvington, ed. Santa Fe, New Mexico: School of American Research Press, pp.33-82.
- Young, William
- 1971 (1795) *An Account of the Black Charaibs in the Island of St. Vincent's, with the Charaib Treaty of 1773, and Other Original Documents, Compiled from the Papers of Sir William Young*. London: F. Cass.
- Yúdice, George
- 2010 “The Central American Caribbean: Rethinking Regional and National Imaginaries.” *El Caribe y sus diásporas: Cartografía de saberes y prácticas culturales*. Anja Bandau and Martha Zapata Galindo, eds. Madrid: Editorial Verbum, pp. 96-115.
- Yupsanis, Athanasios
- 2010 “ILO Convention No. 169 Concerning Indigenous and Tribal Peoples in Independent Countries 1989-2009: An Overview.” *Nordic Journal of International Law*, 79(3): 433-456.
- Žižek, Slavoj
- 1997 “Multiculturalism or the Cultural Logic of Multinational Capitalism.” *New Left Review*, 225: 28-51.
- Zúniga, Angela Iveth
- 2007 *Historia de Honduras: Desarrollo del Programa Oficial de Historia de Honduras*. San Pedro Sula, Honduras: Editorial Cultura.
- Zuvekas, Clarence
- 2002 “The Honduran Poverty-Reduction Strategy.” *MACLAS Latin American Essays*, 16: 1-31.
- 秋葉弘太郎
- 1993 「遠山土佐守伝承と霜月祭りー伝説と郷土史研究者の解釈との交錯」『信濃』45(9): 43-57.

石橋純

2006『太鼓歌に耳をかせーカリブの港町の「黒人」文化運動とベネズエラ民主政治』松籟社.

2009『『黒人』から『アフリカ系子孫』へーチャベス政権下ベネズエラにおける民族創世と表象戦略』竹沢泰子編『人種の表象と社会的リアリティ』岩波書店, 244-265 項.

金澤直也

2007「ガリフナの民族誌再読ー1950年代ホンジュラスの多民族的状況をふまえて」『文化人類学研究』8: 93-104.

2009「黒人から先住民へーホンジュラスのガリフナを事例にして」『イベロアメリカ研究』31(1): 51-61. 桜井三枝子, 中原篤志編『ホンジュラスを知るための57章』2014年, 明石書店, 242-246 項.

2010「世界銀行の貧困削減戦略とネオリベラル多文化主義ーホンジュラスの少数民族ガリフナを事例にして」『年報地域文化研究』14: 155-171. 桜井三枝子, 中原篤志編『ホンジュラスを知るための57章』2014年, 明石書店, 247-250 項.

2012a 口頭発表 “El Programa Nuestras Raíces del Banco Mundial en Honduras: El caso de los afrodescendientes”. Seminario Internacional “Ciudadanía y Movimientos Sociales: En búsqueda de la inclusión”. Universidad Autónoma Metropolitana, Lerma, México, 6 de septiembre de 2012.

2012b 口頭発表「先住民の『母なる大地』と黒人の『先祖の土地』ーホンジュラスの事例」日本ラテンアメリカ学会東日本研究部会. 2012年12月22日. 東京大学本郷キャンパス.

川田順造

1992「“歴史への意志”をめぐるーアフリカの無文字社会が提起するもの」岡田英弘ほか編『歴史のある文明・歴史のない文明』筑摩書房, 151-236 項.

2001 (1976)『無文字社会の歴史ー西アフリカ・モシ族の事例を中心に』岩波書店.

クリフォード、ジェームズ

2003『文化の窮状ー二十世紀の民族誌、文学、芸術』太田好信ほか訳, 人文書院.

国際連合

2007「先住民族の権利に関する国際連合宣言」

小谷汪之

2012「まえがき」小谷汪之、山本真鳥、藤田進『土地と人間ー現代土地問題への歴史的接近』有志舎, vii-xi 項.

シャモワゾー、パトリック、ラファエル・コンフィアン

1995「プランテーション アビタシオン」『クレオールとは何か』西谷修訳, 平凡社, 58-107 項.

杉島敬志

1996「歴史研究にもとづく人類学批判」『民博通信』71: 78-98.

竹沢泰子編

2005『人種概念の普遍性を問うー西洋的パラダイムを超えて』人文書院.

テルズ、エドワード・E

2011『ブラジルの人種的不平等－多人種国家における偏見と差別の構造』伊藤秋仁，富野幹雄訳，明石書店.

トメイ、マヌエラ、リー・スウェプストン

2002『先住民族の権利－ILO 第 169 号条約の手引き』苑原俊明，青西靖夫，狐崎知己訳，論創社.

バスコンセロス、ホセ

1988「宇宙的人種」高橋均訳，『現代思想』16(10): 106-121.

ファノン、フランツ

1998『黒い皮膚・白い仮面』海老坂武，加藤晴久訳，みすず書房.

フレイレ、ジルベルト

2005『大邸宅と奴隷小屋－ブラジルにおける家父長制家族の形成』鈴木茂訳，日本経済評論社.

名和克郎

1992「民族論の発展のために－民族の記述と分析に関する理論的考察」『民族学研究』57(3): 297-317.

ノラ、ピエール

2002「序論 記憶と歴史のはざまに」ピエール・ノラ編『記憶の場－フランス国民意識の文化=社会史』谷川稔監訳，岩波書店，29-56 項.

新聞：スペイン語，出版地 Honduras

*Cronista*

*Día*

*Heraldo*

*Prensa*

*Tiempo*

*Tribuna*

*Vanguardia Revolucionaria*

新聞：英語，出版地

*Gleaner*, Jamaica

*Honduras This Week*, Honduras

*Daily News*, United States

*In These Times*, United States

*New York Times*, United States

*Washington Post*, United States

政府刊行物

*Gaceta*, Honduras

United States National Archives, U.S. Department of State, Record Group 33.